

2019

第31回
千葉県建築学生賞作品集
千葉県建築学生賞協議会

chiba architecture graduate prize

graduate'prize

AEON HALL
イオンモール幕張新都心グランドモール3F

2019年
3月 9日(土)10:00~20:00
3月10日(日)10:00~17:00

島田 大輝	千葉大学 工学部 都市環境システム学科
小山 佳織	日本大学 生産工学部 建築工学科
鈴木 和	千葉職業能力開発短期大学校 住居環境科
今泉 宏太	東京電機大学 未来科学部 建築学科
坂田 晴香	東京理科大学 理工学部 建築学科
中野 拓磨	東京電機大学 未来科学部 建築学科
中根 孝太	千葉工業大学 工学部 デザイン科学科
根本 一希	日本大学 理工学部 海洋建築工学科
三枝 亮太	千葉大学 工学部 建築学科
勝部 秋高	日本大学 理工学部 海洋建築工学科
塚原 誠	千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科
菅原 龍二郎	東京電機大学 情報環境学部 情報環境学科
上田 堅登	千葉職業能力開発短期大学校 住居環境科
高梨 淳	東京理科大学 理工学部 建築学科
鈴木 将真	千葉大学 工学部 都市環境システム学科
上杉 玲央	日本大学 短期大学部 建築・生活デザイン学科
西條 杏美	千葉大学 工学部 建築学科
川口 貴也	東京電機大学 情報環境学部 情報環境学科
長瀬 紅梨	日本大学 生産工学部 建築工学科
大藪 祐司	日本大学 短期大部 建築・生活デザイン学科
町田 忠浩	千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科

OVERVIEW

概要

展示 2019年3月9日(土)10:00~20:00
10日(日)10:00~17:00

公開審査 3月9日(土)10:00~17:00
表彰式 3月9日(土)17:30~18:30

会場 イオンモール幕張新都心グランドモール3F「イオンホール」
〒261-8535 千葉県千葉市美浜区豊砂1-1

主催 公益社団法人 日本建築家協会 千葉地域会(JIA千葉)
公益社団法人 千葉県建築士事務所協会
一般社団法人 千葉県建築士会
一般社団法人 日本建築学会関東支部千葉支所

後援 千葉県 千葉県教育委員会
千葉市 千葉市教育委員会
NHK 千葉放送局
千葉県ケーブルテレビ協議会
朝日新聞 千葉総局
読売新聞 東京本社 千葉支局
毎日新聞社 千葉支局
産経新聞社 千葉総局
日本建設新聞社
日刊建設通信新聞社 東関東局
日刊建設工業新聞社

TABLE OF CONTENTS

目次

- 03 開催の報告と挨拶
- 05 審査総評
- 07 大学作品
- 49 審査経過
- 51 作品リスト・市民の声
- 55 審査結果・なの花会賞
- 57 審査員紹介
- 61 協賛
- 62 主催者団体



開催の報告と挨拶



新たなステージを迎える 学生賞

千葉県内には、建築設計にかかわる組織として4つの建築関連団体があります。

各団体は、建築設計を通じて広く社会に貢献するという趣意で、共通の価値観をもって活動しており、互いの協調により建築界ひいては地域文化の活性化に一層寄与することを目指しています。

千葉県建築学生賞は、こうした趣旨の一環として1988年に発足し、今年度で31回目を迎えます。この賞は、県内に建築系学科を有する大学各位との連携のもと、優秀な卒業設計作品を表彰することによって学生にエールを送るという活動を通じ、建築設計界が社会に貢献するための下地づくりを目的としています。

前回、節目となる「第30回」を新たな会場であるイオンモール幕張新都心内の“イオンホール”において開催し、多くの方々にご来場いただき、大盛況のうちに幕を閉じることができました。前回は、ここ数年開催してきた千葉市の“きぼーる”的改修工事などの都合もあり新しい会場での開催を余儀なくされたわけですが、今回は純粋に学生賞というイベントに相応しいという理由から、前回に統いて「イオンホール」にて開催となりました。密度の濃いイベントに移行するという試みから、例年3日間の開催を今回は土日の2日間のみの開催としましたが、それでも約1000人の方にご来場いただき、今年も大盛況のイベントとなりました。

中野 正也 なかの まさや
千葉県建築学生賞協議会 会長

今年の学生賞は、大学の部に7大学12学科から選抜された21作品の出展と、高校生には作品展示のご協力をいただきました。これは、「千葉県建築学生賞」という卒業制作展の趣旨に賛同し、協力いただけた大学・学科の参加によるものであり、これまで継続的に出展いただいている大学・高校も含めまして、改めて感謝申し上げたいと思います。

今年度も千葉県や千葉市、主催の建築関連4団体と、報道各社や協賛いただきました企業や個人の方々のご支援によって、この「学生賞」というイベントを開催することができました。また、この「学生賞」の運営は、主催の建築関連4団体から出向していただいている実行委員、協賛企業のメンバーや歴代出展者メンバーなど、総勢50名を超える方々のボランティアによって成り立っています。実行委員の皆様にも深く感謝申し上げたいと思います。

それから今年は新たな審査員として田村さん、西山さんといった若いメンバーをお迎えすることができました。公開審査でのディスカッションは、審査委員長の田端さんはじめ、これまでの経験ある審査員の皆さんとの良い意味での意見差もあり、見る側としてはとても楽しい審査であつたと思います。

今、地球規模では温暖化への警鐘が鳴らされ、日本では、集中豪雨、地震、噴火等の自然災害が頻発し、人口においては減少へ転じ、それらに対しての早急なる対応を迫られています。私たちは、これから日本を始め世界の人々

の生活や都市環境を考え、その答えを模索して行かなければなりません。建築界では「安全、環境、持続性(サステナビリティ)」と言うテーマに加えて、「ライフスタイルの転換=エネルギーの大量消費に支えられた快適さからエコロジーやコミュニティーを基盤とする真の豊かさ」を目指した建築、都市のあり方が議論されています。

未来社会の担い手となる学生の皆さん、学習の集大成となる卒業設計を通してこれらの問いにどう取り組むか、このイベントを推進する私たちは大いに期待しております。引き続き、第32回は新たな会長のもと、これまで以上の学生賞イベントとなるよう期待しております。

第31回千葉県建築学生賞協議会 会長 中野正也



COMMENTS ON THE EXAMINATION



田端 友康 たばたともやす

千葉県建築学生賞協議会 審査委員長

積み重ねていくことで

3月9日土曜日の1日をかけて行われた公開審査を終え、日曜日の朝は、久しぶりにゆっくりと起きた。

前日まで月初めに受け取った出展者のプレゼンシートを丹念に読み込んでいた。県内の6大学11学科から21名の出展。今年は重い社会問題に向き合ったものが多いなと思いながら読み進む。問題意識を持つてそれに対抗する、もしくは現状を打破するといったエネルギーのあるものではなく、受け入れてといったところだろうか。全体的印象として素直な印象だ。普段の仕事で社会で起きている問題を強く意識することはない。大抵はテレビを観てしたり、本や雑誌を読んでいる時くらいなものだ。そして繰り返し読み込む日々が続いた。

公開審査の日は、9時に会場のイオンモール幕張のイオンホールに集合した。昨年に引き続き、イオン様にはこの学生賞の趣旨を理解していただきホールをお借りしている。10時過ぎから各出展者のプレゼンテーションが始まった。一人ずつプレゼンの後、質疑応答して作品の理解を深めたいところではあったが、21作品となるとそれだけで1日が終わってしまう。時間の都合ということで質疑応答は、昼食を挟んで巡回質疑で行う形。大勢の前ではなく個別なので聞きたいこと話したいことが自由にできるのでいい時間だ。着席のアナウンスと共に1次審査から始まった。

展示風景



建築を取り巻く情勢が法体系や環境も含め大きく変わってきて、かつて道路と計画敷地の関係だけで成立していたものが、周囲の価値感も注意深く考慮しなければならなくなってきた。そんな中で「アイヌ・アカデミックセンター(1)」「表裏の営み(9)」最優秀賞の「屋木符の樹冠(10)」優秀賞の「海祭礼譜(14)」「小さな沈黙、繙く支度(17)」は敷地にとらわれることなく、その場所の環境・歴史・課題を提案によって好転しようという試みがあり評価した。

一方、建築が思索的なものであることに間違いはなく、住まいを扱った「融和(7)」「際(12)」「木更津活性化計画(13)」や施設を計画した「あたりまえ」の風景(2)」「行川アイランドの再生計画(3)」「工場のアリカタ(4)」「見えない感覚で(5)」「大谷知新(6)」「明日を乗せる"はこぶね"(15)」「Connected Pedestrian Roads(16)」「連なりあう空間(18)」「Pass The Time(20)」は、より深く建物について考えようとする試みが感じられる。しかしそれを表現できるまでには洗練する時間と経験が必要なのかもしれない。

いい意味で異質であったのが、実際に作ってみた「きっかけの3坪(11)」やゲリラ的というかタクティカルアーマニズム的というか特別賞の「カタチのアラワレ(21)」。特別賞の「痕跡の行方(8)」や「箱入り娘の夜(19)」は娘の姿よりむしろ小さく暗いバーで一人グラスを傾けるおじさん(私ではない)が見えてしまったりして、色々なイメージが沸き立った。

もっと様々な対話して、聞きたいこと伝えたいことができればと思いながらも公開審査の1日が終わっていた。

少し遅く起きた日曜日は、残っていた仕事をこなしてから、最終日の会場へと向かう。時間を間違えていて展示の撤収はほぼ済んでいた。そんなんであったが多くのスタッフの方々のお陰を持って無事終わろうとしていた。

誰かか何かを感じとて提案する・みんなでプログラムを考える・そして誰かか思索的に建築を創っていく。その過程においてトータルにもしくはパートを担っていくことになるだろう。大変革などは求めいない、自分も劇的には変わらない。小さな変化を積み重ねていくしかない。出展した作品がアンカーポイントとなることを願っている。

イチローはこう言っている

「小さいことを重ねることが、とんでもないところに行くた
だひとつの道。」

別の言い方で

「今自分にできること。頑張ればできそうなこと。そういう
ことを積み重ねていかないと遠くの目標は近づいてこな
い。」

私などはこれから積み重ねてもたかが知れているが、肝
に命じている。

出展者たちは時間がある、小さく単調でも続けること
で少しでも遠くへと…

最後の作品を運び出す若者の背中を見送った。

第31回千葉県建築学生賞協議会 審査委員長 田端友康



最優秀賞

市民賞

JIA 全国大会出品



水都の樹冠 すいとのじゅかん

ゼロメートル地帯の道しるべとなる防災・避難公園



浸水をただ待つ街、江東区。水害時にはゼロメートル地帯全ての住民が区内にある高台へ避難する必要がある。

しかしこの海水面よりも低い地盤には下町文化が根づいた街が形成されている。水害は建築を破壊するだけでなく、ときに伝統や文化の継承をも途絶えさせてしまうこともある。

スーパー堤防の様な土木的な手法ではなく建築的な手法を用いて問題を解決できないだろうか。

そこで住民が避難できる公園を積層した建築を提案する。

このモデルケースは海拔ゼロメートル地帯に点在していく、東京低地に新たな災害時の道しるべとしてネットワークしていく。そして地域の里山の存在となり下町文化を次世代に継承していく場所をつくる。



作品詳細

01 離島あふれる里山に複数のリスクに抱えている島



【島の現状】

島の現状は、海岸線から離れた位置に開拓された田畠が点在する。また、2013年7月豪雨によって崩壊が発生している。

【リスク】

大雨による土砂災害の懸念、台風による風浪、豪雨による河川氾濫等。

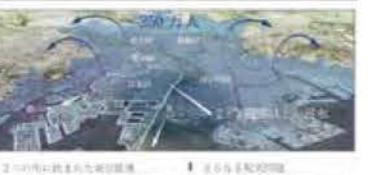
【想定】

大雨による土砂災害の懸念、台風による風浪、豪雨による河川氾濫等。

【対応】

大雨による土砂災害の懸念、台風による風浪、豪雨による河川氾濫等。

02-1 優先ことしきでできない現状



02-2 400分かけて済ませていく計画



【現状】

スーパー堤防による海水面の上昇により、地盤沈下による島の大きさの縮小による島の内陸への移動が進んでおり、島の現状は、

海岸線から離れた位置に開拓された田畠が点在する。また、2013年7月豪雨によって崩壊が発生している。

【課題】

大雨による土砂災害の懸念、台風による風浪、豪雨による河川氾濫等。

【対応】

大雨による土砂災害の懸念、台風による風浪、豪雨による河川氾濫等。

【目標】

島ととともに成長して行く防災計画が必要である。

03-1 生物的に成長する施設インフラとしての樹冠



03-2 生物的に成長する施設インフラとしての樹冠



03-3 生物的に成長する施設インフラとしての樹冠



03-4 生物的に成長する施設インフラとしての樹冠



海面0メートル地帯への集中豪雨、台風、高潮、津波などから守る防災建築とした作品である。

スーパー堤防計画があるが完成には相当の時間がかかり、また現在の下町風情や飲食店の活気がなくなってしまうような高層マンション建築やビルディング化していくことはなく現在の賑わいを残しながら、下町から通路を経て木漏れ陽広場にたどりつく。

平常時使用の低層階施設と災害時機能するクリニックや管制室、避難場所をGL+10以上に設けている。

模型は適度な空間とほどよいプロポーションとなっており中央の木漏れ陽広場には直射日光も入り心地よい空間となっている。なにより主幹を中心に空中回廊が木造密集地区へボケットバー

クや共同物干し場を設けながら生物的に伸びていくのがとても良い、通常利用でもエレベーターが付随していて空中回廊を主幹方向へ進むと避難場所となる樹冠の公園にたどりつくしくみで、生活道路の一部となればよりスマーズに避難することもできる。

土木的な防波堤の第2段ではなく空中を軽快に結ぶ避難経路の建築が脳の神経細胞のように繋がり、緊急時にはどこからでも上方へいつでも避難できる安心感はとても重要であり下町の祭り文化と共に新たな建築空間を構成する秀逸な作品である。



審査員 蒲生 良隆

04 地域の工事施工計画



05 江戸時代の樹冠が実現される建築



優秀賞

なの花賞

千葉県
建築設計士が
選ぶ作品賞

JIA 全国大会出品

No.17



Phase.1



Phase.2

Phase.3

私が生まれた平成8年、小さな国が外の世界と繋がることを許された。
「らい予防法」の廃止である。隔離政策から解き放たれた今日でも、敷地と周辺には目に見えない隔たりがあるようだ。静けさが満ちたこの場所の住人は平均年齢85歳を迎える、小国への滅亡がはじまりつつある。

ここで、外から突きつけられた制約によって内部で生まれた暮らしの形態を用い、更に解体のタイムラグを用いながら次の新しい物語をはじめる支度を提案する。

西條 杏美 さいじょう あんみ
千葉大学 工学部 建築学科



作品詳細

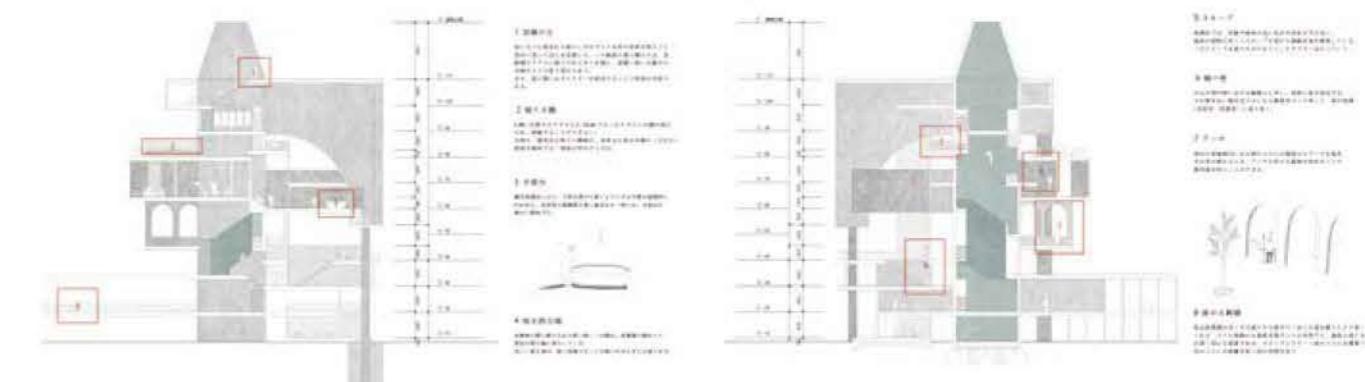
小さな沈黙、繙く支度

本作品は、日本最北のハンセン病療養所である青森県青森市立保養園とその周辺地域が、計画地である。隔離されてきたハンセン病患者に焦点をあて、今なお続いている「保養園」と「周辺地域」の分離した関係性をどうすれば融合できるかをテーマに、真剣に考え取り組んだ作品である。時間と味方について「建築」によって人ひととを統合してゆくことが、実現可能であることを提示している。高い造形力と共に深い物語性をもつた秀作である。一般的に過去の歴史上の問題を建築によって表現する場合、「負のかたち」として顕在化させ、アイコン化する手法がとられるが、本提案では、シンボル性の高い建物を構築するものの、建築の本来の役割は、「地域の人ひとが空間體驗を通じて意識を変容させること」であり、時間軸と共に建物は変容する。建物を遺すことを意図的に目的とせず、最後はすべて朽ち果て自然に還るという計画に、潔さを感じた。この深く考えられた物語に身をおいたら、「人の意識をかえることとは自分をかえること」と気づくことができるのではないか。保養園を構成していた建物要素（アーチなど）からデザインされたシンボルタワーは、意図的ではあるが、美しいフォルムを獲得することに成功している。



敷地

構型



審査員 関谷 和則

日本最北のハンセン病療養所である青森県青森市立保養園とその周辺地域が、計画地である。隔離されてきたハンセン病患者に焦点をあて、今なお続いている「保養園」と「周辺地域」の分離した関係性をどうすれば融合できるかをテーマに、真剣に考え取り組んだ作品である。時間と味方について「建築」によって人ひととを統合してゆくことが、実現可能であることを提示している。高い造形力と共に深い物語性をもつた秀作である。一般的に過去の歴史上の問題を建築によって表現する場合、「負のかたち」として顕在化させ、アイコン化する手法がとられるが、本提案では、シンボル性の高い建物を構築するものの、建築の本来の役割は、「地域の人ひとが空間体验を通じて意識を変容させること」であり、時間軸と共に建物は変容する。建物を遺すことを意図的に目的とせず、最後はすべて朽ち果て自然に還るという計画に、潔さを感じた。この深く考えられた物語に身をおいたら、「人の意識をかえることとは自分をかえること」と気づくことができるのではないか。保養園を構成していた建物要素（アーチなど）からデザインされたシンボルタワーは、意図的ではあるが、美しいフォルムを獲得することに成功している。

優秀賞

JIA 全国大会出品

高梨 淳
たかなし あつし
東京理科大学 理工学部 建築学科



No.14

海祭礼讚
かいさいらいさん



漁業と祭りを中心とするまちの建築

古くより多くの沿岸部では漁業という共同作業の生業によりまちが発展してきた。さらに漁師たちは海上事故や天災と信じ神に祈りを捧げ始めた。これが祭り文化の起源である。かつての漁港空間は漁師たちの生産空間のみならず地域の人々の居場所であり、海の神を向かいいれる祭りの舞台であった。つまり漁港空間とは共同生活空間すなわち地域の公共施設としてまちに寄り添ってきた。

これは海とまち、人と神を結ぶ漁港であり祭りの舞台である。漁業と祭りを中心とするまちの建築の提案。私の地元の千葉県勝浦市、失われつつある漁師町の風景と人の温かみ、威勢のいい祭り喰をこれから衰退していくまちの未来に残す。

添景の構造

漁村には農村とはまた違う共同体のかたちがある。それは生産とそれに伴う危険を共有するがゆえの生産機能集団としての生活共同体である。本作品では勝浦漁港を対象地として、生産の核であり、同時に神事の舞台としての漁港の再興が、塩見岬神社と沖の鳥居を結ぶ神聖なる軸(HolyAxis)の再生と重ね合わせせながらプレゼンテーションされた。

神事と生産を地続きに見通し、建築に転化しようという試みは一見アコバティックにも思えたが、作者がもつ添景への信頼によって不思議な説得力を持って建築化されていた。添景とは建築として固定されないものごとで、家具や道具類、仮設物など人の活動の結果持ち込まれたものがそれにある。いわば設計側から見た外、使い手側にゆだねられているものである。しかし本作ではこの関係の反転が試みられているようだ。添景が前面に押し出され逆に建築は後退する。ストラクチャーはサブストラクチャーを経由してスケールダウンされ、漁師が自由に造作する添景に溶ける。

模型を覗き込むと、施設中央に設定された‘参道’がよく見通せる。そこには神輿と漁具が並列に置かれ、祭のような日常が表現されており、この街のケハレが祝祭性を軸とした鏡像関係にあることがよくわかる。

作品詳細



海祭礼讚 -漁業と祭りを中心とするまちの建築-

これは海とまち、神と人を結ぶ漁港であり祭りの舞台である。日本を發りにし、祭りを日常にした漁業と祭りを中心とするまちの建築の提案。私の地元の千葉県勝浦市、失われつつある漁師町の風景と人の温かみ、威勢のいい祭り喰をこれから衰退するまちの未来に残す。

01.はじめに 漁業と祭り

この構造の主張としての漁業と祭り空間
古くより多くの漁村は漁業を中心とした生業によって生き残ってきた。さらに漁業とともに漁業と祭りは大きな柱に付いて歩くべき文化が生まれた。そのため漁業空間は漁業と祭りを繋ぐ重要な役割を果たす。またその他の資源空間も含め、漁業と祭りは密接な関係性を持っています。

つまり漁業空間は小さな空間から入り組むのは不思議をしてしまうことがあります。



02.歴史 演業と祭りを中心につけて来たまち、勝浦

千葉県勝浦市に位置する勝浦漁港は古くから漁業と祭りによってつながっています。古くから漁業を中心とした漁業生業は日本全国、世界中の多くの水郷で見受けられます。勝浦市には古くから漁業と祭りが密接に連携しているため、漁業と祭りは常に密接な関係性を持っています。

漁業と祭りはどちらも勝浦の歴史において重要な要素でした。特に祭りは、古くから漁業と密接な関係性を持っています。



03.提案 演業と祭りを中心とするまちへの提案

「漁業と祭り」をテーマにしたまちの提案
漁業と祭りは古くから密接な関係性を持っています。一方で、漁業と祭りは必ずしも必ずしも密接な関係性を持つことはないのです。そこで、この提案では、漁業と祭りを密接に連携させることで、漁業と祭りが互いに影響を与えることを目指します。



04.提案 演業と祭りを中心とするまちへの提案

「漁業と祭り」をテーマにしたまちの提案
漁業と祭りは古くから密接な関係性を持っています。一方で、漁業と祭りは必ずしも必ずしも密接な関係性を持つことはないのです。そこで、この提案では、漁業と祭りを密接に連携させることで、漁業と祭りが互いに影響を与えることを目指します。



05.提案 演業と祭りを中心とするまちへの提案

「漁業と祭り」をテーマにしたまちの提案
漁業と祭りは古くから密接な関係性を持っています。一方で、漁業と祭りは必ずしも必ずしも密接な関係性を持つことはないのです。そこで、この提案では、漁業と祭りを密接に連携させることで、漁業と祭りが互いに影響を与えることを目指します。



06.模型図 漢字まち、なんじ神をつなぐ漁業と祭りを中心とするまちの建築

この構造の主張としての漁業と祭り空間
古くより多くの漁村は漁業を中心とした漁業空間で、漁業と祭りは密接な関係性を持っています。一方で、漁業と祭りは必ずしも必ずしも密接な関係性を持つことはないのです。そこで、この提案では、漁業と祭りを密接に連携させることで、漁業と祭りが互いに影響を与えることを目指します。



07.シーン ハレカケの概念

この構造の主張としての漁業と祭り空間
古くより多くの漁村は漁業を中心とした漁業空間で、漁業と祭りは密接な関係性を持っています。一方で、漁業と祭りは必ずしも必ずしも密接な関係性を持つことはないのです。そこで、この提案では、漁業と祭りを密接に連携させることで、漁業と祭りが互いに影響を与えることを目指します。



No.21

特別賞

町田 忠浩
まちだ ただひろ
千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科



かたちのあらわれ 力タチのアラワレ 動きのカタチの存在とそれに基づく設計

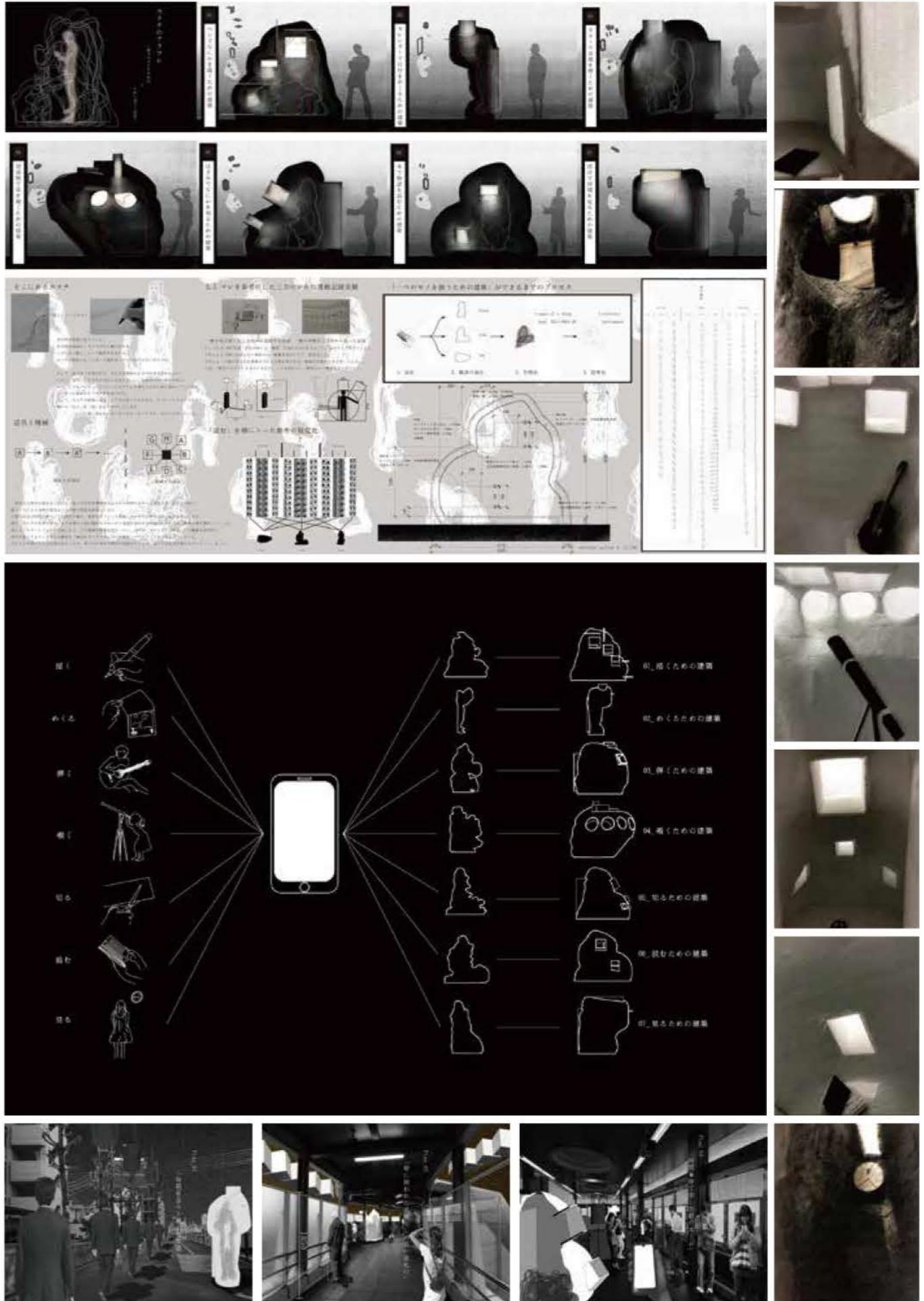


私たちの日常は目に見えないカタチで溢れている。しかし、スマートフォンの登場により日常の多くの動作は「画面をタッチする」という動作に置き換えられ、私たちの生活は便利で合理的に、しかし、单调で抑揚のないものになってしまっている。今回、モノを扱う動作それぞれに「動きのカタチ」が存在すると仮定する。それをE.J.マレの実験により、動作の軌跡を記録し、目に見えるカタチに現し、空間化のプロセスを経て、建築に成る。これによってできた建築は狭く、非理性的なものであるが、人とモノと建築の距離を近づけ、一つのモノを扱う動作をより研ぎ澄ませ、感じさせてくれる。スマートフォンで調べればなんでもわかる今の時代に、なんともいえないようでもともいえるようなカタチをもつ建築が様々な場所に現れることで人々の中に謎を生じさせる。そして、空間内での動作と場所が結びつき、場所を超えたカタチがアラワレ、人々に問いかけていく。

誰もがスマートフォンを持つ時代、膨大で均質化する情報の流れに飲み込まれた生活となった結果、単調な生活=「テンプレート化された行為」になってしまっていることに、問題意識をもち、この状況に警告を促すための実験的な作品である。足立区内の公共性の高い場所に、ひとの行為から導かれた小さな空間を点在させることによって、あたかも教会におかれた懲悔室のような「自分を見つめなおす場」を生み出している。この実験的な取り組みを徹底的に展開して、ユニークな空間を創出している点は高く評価できる。情報が簡単に得られる今日だからこそ、「自らの身体性を駆使して獲得した学び(体験)は価値が高い」を示唆している点は先見性があり、とても共感できる。

審査員 関谷 和則

作品詳細



No.08

根本 一希
ねもと かずき

日本大学 理工学部 海洋建築工学科



こんせきのゆくえ 痕跡の行方

生を具現化した風景がつくる死と人の新しい距離感



私は死についてよく考える子どもだった。

死という果てしない概念は難しく、子どもの私は一人悩んだ。

しかし、それを大人や友達に話すことはできなかった。死を考えることが悪いことのように感じた。墓の管理や無縁墓地の増加などといった問題の根底には、人々の「死への無関心」があると感じる。

その原因は現在の聖域のような墓や、死が見えないように作られたまちが。

死を考える機会を奪ってしまっているためであると考えた。

そこで、「人がいなくなった空間」に残された「人がかつて居た痕跡」を頼りに、生の具現化を行う。

すると自らが死について考え、死との距離を選び取れる場ができるのではないか。



審査員 磯野 智由

まず、この作品のプレゼンテーションの表現と統一感、はかなさと優しさを感じる表現に一目を置く。模型にも出来上がる建築にもその表現を感じることができ、提案の全体性や総合力が伝わってきた。内容は死というテーマに向き合って建築の終わりと関係付けて昔ながらの団地が衰退する環境を合わせて表現している。いくつもの建築的な行為が意図ある結果として結びつけられるように様々な工夫を感じ、しかしながら、創り出されてくるメッセージが伝わりづらくなってしまっているところが、惜しまれる。作品は奥深く体験によって感じとつてもうことが大切

であるが、こうしたコンペショナルな場では、よりわかり易さも大切な時もある。新しい死との向き合いをテーマにしつつ、残された団地内の死との向き合の方は、水、土、風、樹木といったもので、その手法が団地を墓地とする形式として果たして適切だったのか。もう少し、素直に団地の状態や状況をとらえ、その形式をうまく利用している姿と、単なる廃墟とならない仕掛けや仕組みをもう少し落とし込めると、リアリティを作り出せたのではないかと思います。彼の建築的な表現は、とても魅力的で今後も自信をもって進んでもらいたいと思います。

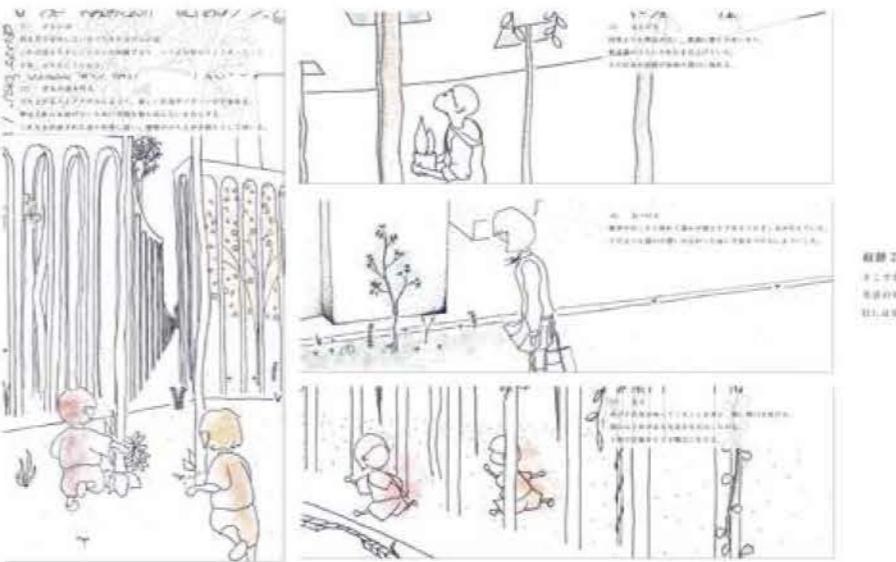
作品詳細



痕跡の行方

生を具現化した風景がつくる死と人の新しい距離感

痕跡-行場地が供給する計画的な接觸

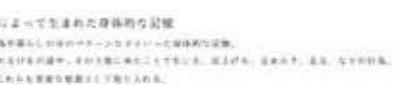
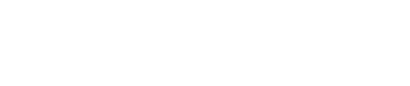
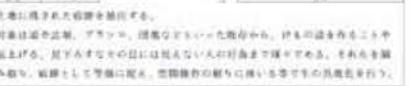
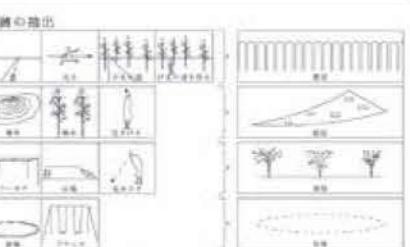
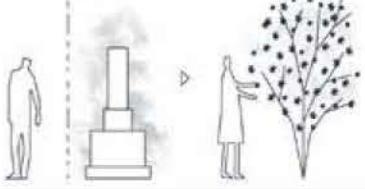
生を具現化した風景がつくる死と人の新しい距離感
死と人との新しい距離感

痕跡3: 建築と人をつなぐ

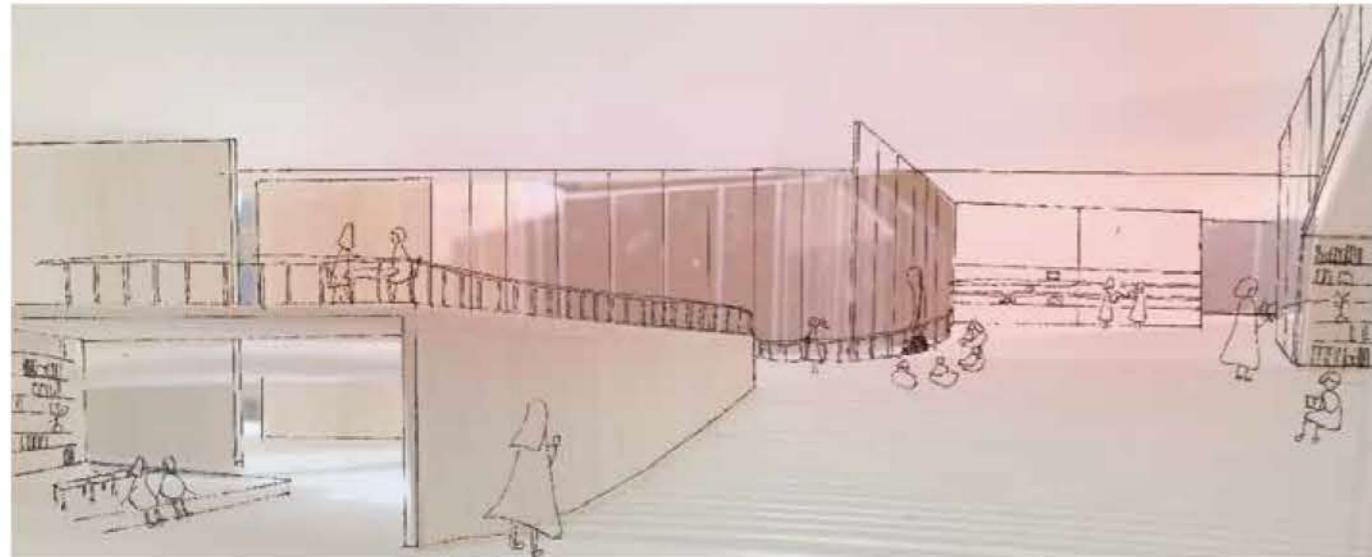
建築物も人がいたことを出す前段である。付帯の死を記念する空間に樹木並木を配置し、死者の精神を通じて表す。空間構成の方法として、樹木、土壇、墓碑、木製などといった静いものを活用し再創造する形の取り扱い。



死と人との新しい距離感

建物の脇のこのような壁ではなく。
対照として死を感じられる場所を目指す。
そこでは人の活動と死を隣接させ、死と死にある距離をつくる。
その距離は死の死に対する儀式感を抱え、死との向き合い力を高める力を持った。

坂田 晴香 さかた はるか
東京理科大学 理工学部 建築学科



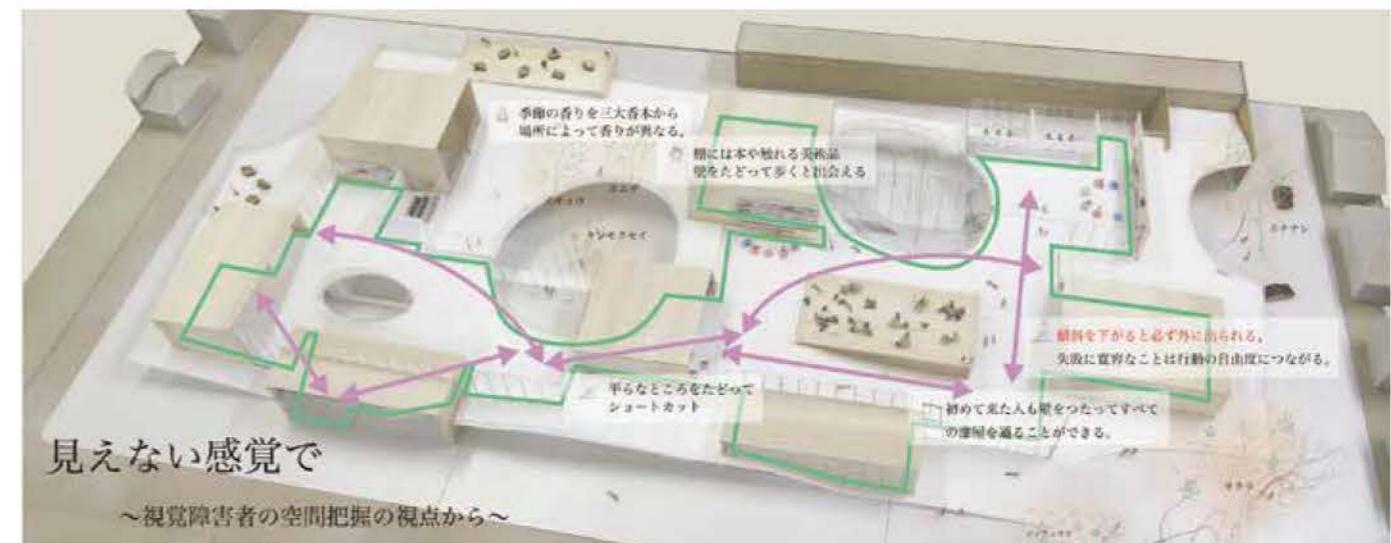
見えないかんかくで 見えない感覚で 視覚障害者の空間把握の視点から



自分と異なる体を持つた人は全く違ったように世界を捉えているかもしれない。視覚のない体で捉えた世界や建築はどうなっているのか。見えないことは足りていないのではなく、違うバランスで成り立っているという立場から、見えない人の生活を調査する。その結果から建築の構成要素の役割を再定義し、設計する。

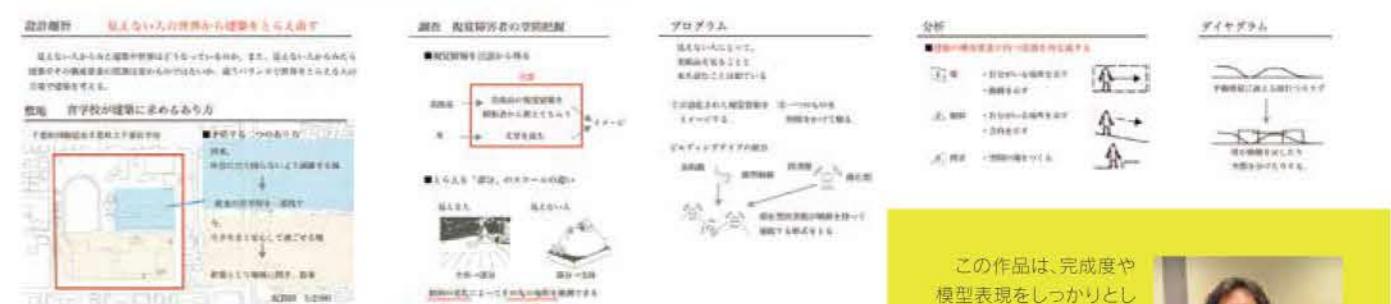
盲学校は実家のすぐ近くにある。しかし生徒との関わりは一切なく、生徒は閉じた世界の中で幼稚園から高校まで過ごす。多様性を受け入れ、マイノリティが着目されつつある現代。盲学校のあり方はもっと開いたものとなるべきだ。違いを面白がって設計した建築で、見える人と見えない人は対等に互いの違いを面白がったアクティビティを行う。

作品詳細

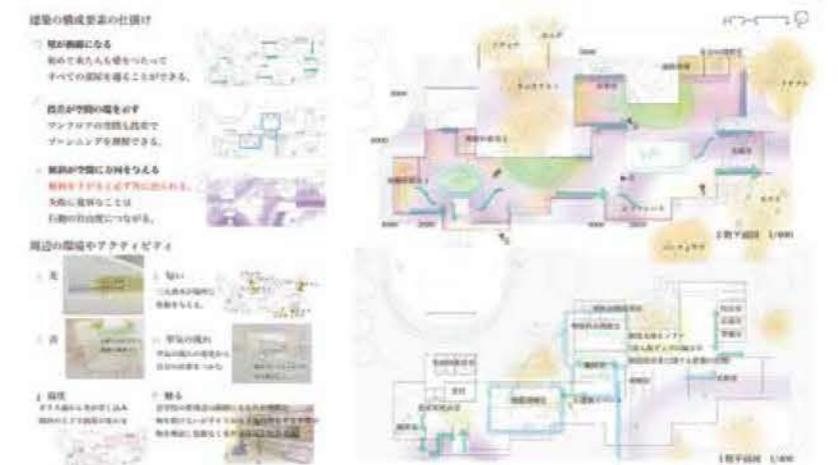


見えない感覚で

~視覚障害者の空間把握の視点から~



平面図



歩行のレベル別動線の選択性



縁の線上を歩いた時の見えない人の空間体験



この作品は、完成度や模型表現をしっかりとすれば、強く最優秀に押したであろう作品である。残念ながらそのディテールの詰めが希薄なところで、他の審査員には響かなかつたのかも知れない。視覚障がい者に対して新たな建築手法を生み出し、建築の形式を作ろうとしているチャレンジある作品であった。設計していく中で、あいまいで、ほんやりしているものが、一つのストーリーとして繋がっていく。そんな時は、設計している者にとって最高に興奮する瞬間でもある。こうした、連続があればあるほどその建築の完成度は高くなっていくと考えている。この設計で言えば、スロープ、音、ゆっくり、早く、安全に、光やにおいといったところまで結びつけられていた。しかしながら、もう少しそれぞれのディテールを詰めること、構造や素材においても考え方設定していくことで、さらに建築の面白さが表れてくるはずである。白の模型で抽象的な状態で終わらせてしまっているのも惜しいところである。アイデアをもう少し具体化していくことで、完成度を高め、ゆるぎないデザインを見せることができたら…。これから活躍に期待します。



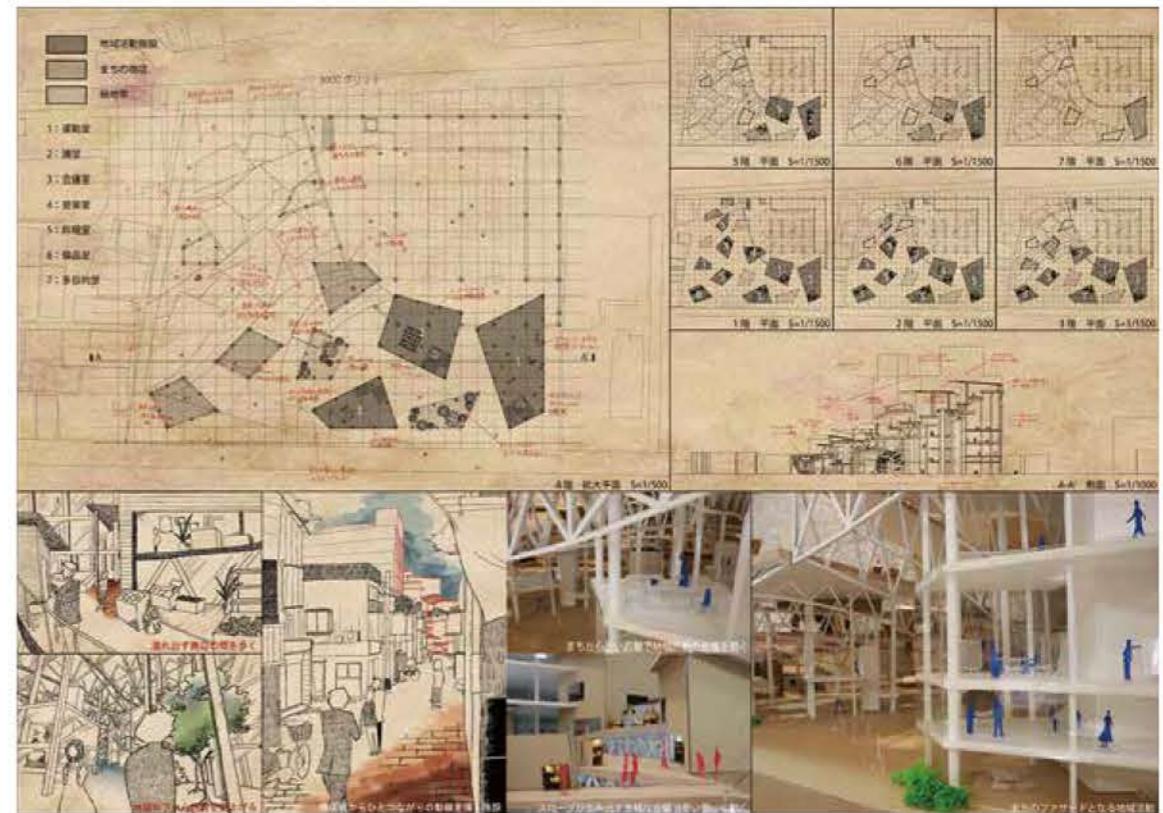
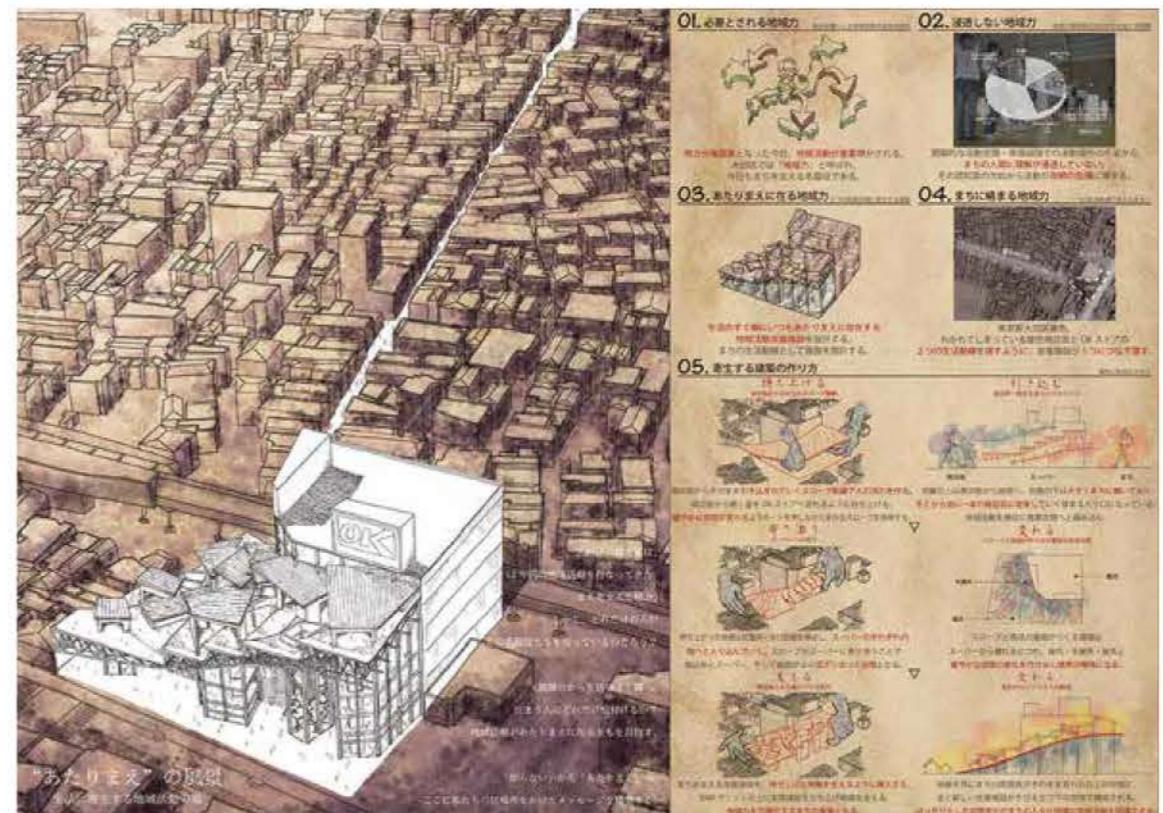
審査員 磯野 智由

No.02

小山 佳織 こやま かおり
日本大学 生産工学部 建築工学科



作品詳細



審査員 西山 芽衣

地域を支える縁の下の力持ちのような活動があまり人々に知られていないという、作者の実体験からくる問題提起をスタートに、地域活動を行う人々が活動する場所と地元商店街が、本来であれば対応する存在であるはずのスーパーに巻き付くように寄生し、一体化してしまうという面白い作品でした。様々な目的をもつた人々が集まってきて、思いもよらぬ出会いや交流が生まれ、活気ある場所になることが想像できる楽しい提案で、本当にこんな場所ができたらいいなと思います。提案では、スーパーにまきつく螺旋状の建築の表面は商店街に、建築を支える下層が地域活動の支援施設になっていますが、地域や社会への愛に溢れた地域活動それがもっと注目され、より活気づくために、商店街やスーパーと地域活動の場の境界線が曖昧になって、溶け合うように存在していてもいいのではと感じました。そして、主役である活動団体の人々が楽しく活動を続けていくために、この支援施設が提供できる空間はどういったものだろうかと、より鮮明な空間の設計にもう一步踏み込めば、さらに魅力的な提案になると思います。実際に地域活動へ参加しているからこそ感じる肌感覚を大切に、これからも新しい場の提案にチャレンジしていくほしいと思います。

島田 大輝 しまだ たいき
千葉大学 工学部 都市環境システム学科



あいぬ・あかでみつくせんたー

アイヌ・アカデミックセンター

旧絵柄小学校を活用した民族共生空間の提案



近年、世界各国で先住民族の文化回復・権利保護が進んでおり、特にオリンピック開催を契機として国を挙げてそれに取り組む傾向にある。

しかし日本の先住民族の一つであるアイヌ民族に目を向けると、その取り組みは十分であるとは言えない。

問題の一つにアイヌ文化を学ぶ環境の不足が考えられた。

そこで文化観光を絡めたアイヌ文化継承学校を計画する。

対象地は、アイヌ文化の歴史を有しながら、観光地として伸び悩んでいる北海道室蘭市絵柄半島とした。

本計画では廃校小学校を活用し、地元住民や観光客にとっての「アイヌ・アカデミックセンター」を創造している。

「アイヌ・アカデミックセンター」はまちに賑わいを与え、日本の民族共生の第一歩となるだろう。

アイヌ・アカデミックセンター

旧絵柄小学校を活用した民族共生空間の提案

近年、世界各国で先住民族の文化回復・権利保護が進んでおり、特にオリンピック開催を契機として国を挙げてそれに取り組む傾向にある。しかし日本の先住民族の一つであるアイヌ民族に対する取り組みは十分ではない。問題の一つにアイヌ文化を学ぶ環境の不足が考えられる。そこで「アイヌ文化継承学校」を活用した民族共生空間の提案を行った。本計画では廃校小学校を活用し、地元住民や観光客にとっての「アイヌ・アカデミックセンター」を創造している。「アイヌ・アカデミックセンター」はまちに賑わいを与える第一歩となるだろう。



審査員 蒲生 良隆

北海道室蘭市に現存している二つの円形校舎の保存再利用を改修増改築にて新たな用途にコンバージョンする計画である。スクラップ&ビルトではなく既存のデザインを生かしながらエントランス、アクセス棟を新たにつくり円形校舎を免震レトロフィットにより再生させている。旧絵柄小学校の面影を残し町のシンボルとする考えに共感を覚える。東京オリンピックによりアイヌ民族への偏見や格差を改善するべく注目を集めようと考えられている。市民利用と観光利用を目的に運営まで検討されており現地への調査、市民へのヒヤリングも行って市民の保存運動に一役かう形となっていて実現性のある作品となっている。

改修建物にデザインを付加することが難しいなか円形劇場の黒

い煙突より白い煙が狼煙のように立ち上り客船が着く港からシンボリックにその存在をアピールする。防災公園・町のコミュニティースペース・歴史資料館としながら学習者を呼びアイヌ博物館の学校として正しい知識を学べるように計画されている。

再生にあたり市民参加型の家具製作などより地域に愛着をもたせる工夫もされており秀一な作品でありこれから建築を考えるとき既存再利用の選択肢を与えるのに一石を投じる作品であり、これから設計活動がとても楽しみである。

No.09

三枝 亮太
みえだ りょうた
千葉大学 工学部 建築学科



ひよりのいとなみ
表裏の営み
そして、境界は消える



本提案の目的はホームレスを救う事である。そこで私が提案するこの建築は、ホームレスにとって居住空間として機能すると同時に、一般市民にとっては娯楽・商業施設、PublicSpaceとしても機能するというものである。具体的に、裏側空間に彼らに提供される寝床空間が広がり、そこから分離された彼らの生活に関連した空間が表側に表出していて、そこが一般市民にも開放されている。こうして、ホームレスと一般市民が同じ空間を共有しても違和感のない世界観ができ、表側空間は楽しく居心地の良い、居住者にとっても一般市民にとっても寄り付きやすく様々な方ができる空間デザインとなっている。ここでは、もはや両者の狭間にある境界は消滅している。



審査員 磯野 智由

ホームレスのドヤ街を何とかしたいという完成度の高い作品であり、ベスト3に入つてもおかしくない作品であったと感じている。

表と裏というタイトルであるが、地域が表も裏も吸収する新たな関係の場を構築して行くことを提案している。否定的に物事を捉えるのではなく、現況を如何に前向きに捕らえて、建築によりその環境を変えていくかという街づくりに大変好感が持てる。実際に受け入れがたいホームレスに、どのようなプログラムによって仕事を作り、収入を得て、街づくりのみならず、心を変えていくことが仕掛けられているおり、作品にアリティを作り出している。

実際には当然難しく繊細で複雑な心理、多様な人間関係の中、カウンセリングや管理主体となる事業主はどうなのかといったところはさておき、僕の深い街ならではのこの提案は、プログラムだけでなく空間的にも丁寧に作り上げている。地域の活性化をテーマに様々案はあるが、地域の現況や環境を大きく変えることなく上手く一新させており、地域改善にチャレンジある提案となっている。

作品詳細



この建物は、
ホームレスにとって必要な居住空間として、一般市民にとっては娯楽・商業施設、PublicSpaceとして機能する。
はじめに、

a. ホームレスの定義
都市お嬢、河川、道路、駅舎、その他の施設を起居の主要な場所として日常生活を送っている者。
なお、本提案では、キオスクや簡易宿泊所等を起居の主要な場所とし、住所を持たない者も
広義のホームレスとして定義することとする。

b. ホームレスと一般市民の境界の問題
ホームレスと一般市民の間には見える、あるいは、見えない境界がある。
この境界は、様々な解決策を進めるうえで障壁として機能してしまう。
この障壁は、彼らの社会復帰を更に困難なものにしてしまっている。
物理的に見えた「金がない」(EX)という問題から生じる境界もあるが、
やっかいなのは見見や漠然ある生じる精神的な面での境界である。

1. 問題提起

- ・路上の便に取り込む権利を防ぐことはできないのだろうか?
- ・自己責任論のひどことで負けてしまう存在なのだろうか?
- ・人としての最低限の生活をおくる権利すら無いのだろうか?
- ・彼らの為の建築はいかに存在しうるのだろうか?

3. 敷地について

対象地域

元山谷地区
(現在の東京都台東区浜田-日本堤・東浅草付近)

対象地域の選定理由

- ・ホームレスに対して「他の誰か」という特性がある。
- ・元山谷地区は現在過疎地である。

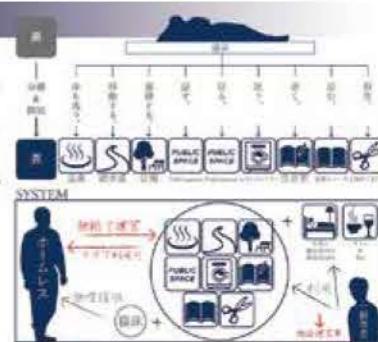
敷地決定の為の現状調査MAP



3. 提案

ホームレスの為の居住空間を構築する。
まず、基礎空間には彼らのための「寝床」を計画し、
そこをホームレス状態にある方々に提供する。
そして、「庭園(以外の彼らの生活空間を分離し、
それを表側空間に配置計画する。
これを、広いホームレスの方々の居住空間としつつも、
同時に、一般市民に対しても開放する。

この提案のねらいは3つである。
・ホームレスに安らかに暮せる新居を提供
・地域住民に受け入れられ、愛される
・ホームレスと一般市民の境界の消滅



4. 設計

必要空間の分析

まず、一般的な独り暮らしの住まいを想定する。
次に、それを機能空間ごとに分解し、そこで行われる行為に着目する。
分解された空間を、地域に散在する施設を参考に要検討していく。
定期作業より、必要とされる施設を組成要素とする。



中野 拓磨 なかの たくま
東京電機大学 未来科学部 建築学科



作品詳細



大谷知新 おおやちしん

石の営みによって生まれた地域資源の再編



審査員 貞弘 清英

大谷石の採掘場跡に計画された施設は、既設の大谷資料館や稻荷神社との軸線上に位置付けられ、石の表情を立体的に俯瞰できるように来場者を誘導し、その魅力が体感できるような仕組みが用意されている。この作品は、既設の大谷資料館とは異なる視点で計画された臨場体験型博物館とも言えよう。

この作品で注目すべき点は、採掘前の山の姿を中心にして塔の高さによって、山の名残を表現していることである。塔の頂上に立てば大谷を一望し、削り出された山の姿から地下の大空間に引けを取らない程、かつて存在した大谷石のボリューム感に圧倒されることになるだろう。また、塔の頂上へのアプローチは、かつて石工が採掘の作業を終え、地上に引き上げる時の開放感を共有させている。

このような視点から考えると、コールテン鋼で石を覆う意味があまり感じられない。大谷石の劣化を防ぐこと、経年劣化により表情が変わることで選ばれたとしても、施設全体が暗いイメージとなってしまっている。大谷石は劣化するからこそ大谷石であって、その特性は大事にしたい。風雨に晒されない大谷石は独特の風合いを持ち美しく、劣化する大谷石とのギャップを強調しても良かったのではないかと思う。

コールテン鋼の採用に疑問を持つものの、採掘前の山をイメージさせる動線計画はオリジナリティがあり高く評価したい。遺構というマイナスなイメージでは無く、新たな施設の為に山を削ったかのような作品に仕上がりればより高い評価が得られたのではないかと思う。

大谷知新

石の営みによって生まれた地域資源の再編

no.06/21

Section S-1:400



長瀬 紅梨 ながせ あかり
日本大学 生産工学部 建築工学科

No.19

箱入り娘の夜 私たちの想いを携えそびえる洞窟の家



私の家は私が一番安心できる場所。
私の部屋は私を一番受け止めてくれる場所。
しかしある日の夜、家と部屋は私を閉じ込める檻になる。

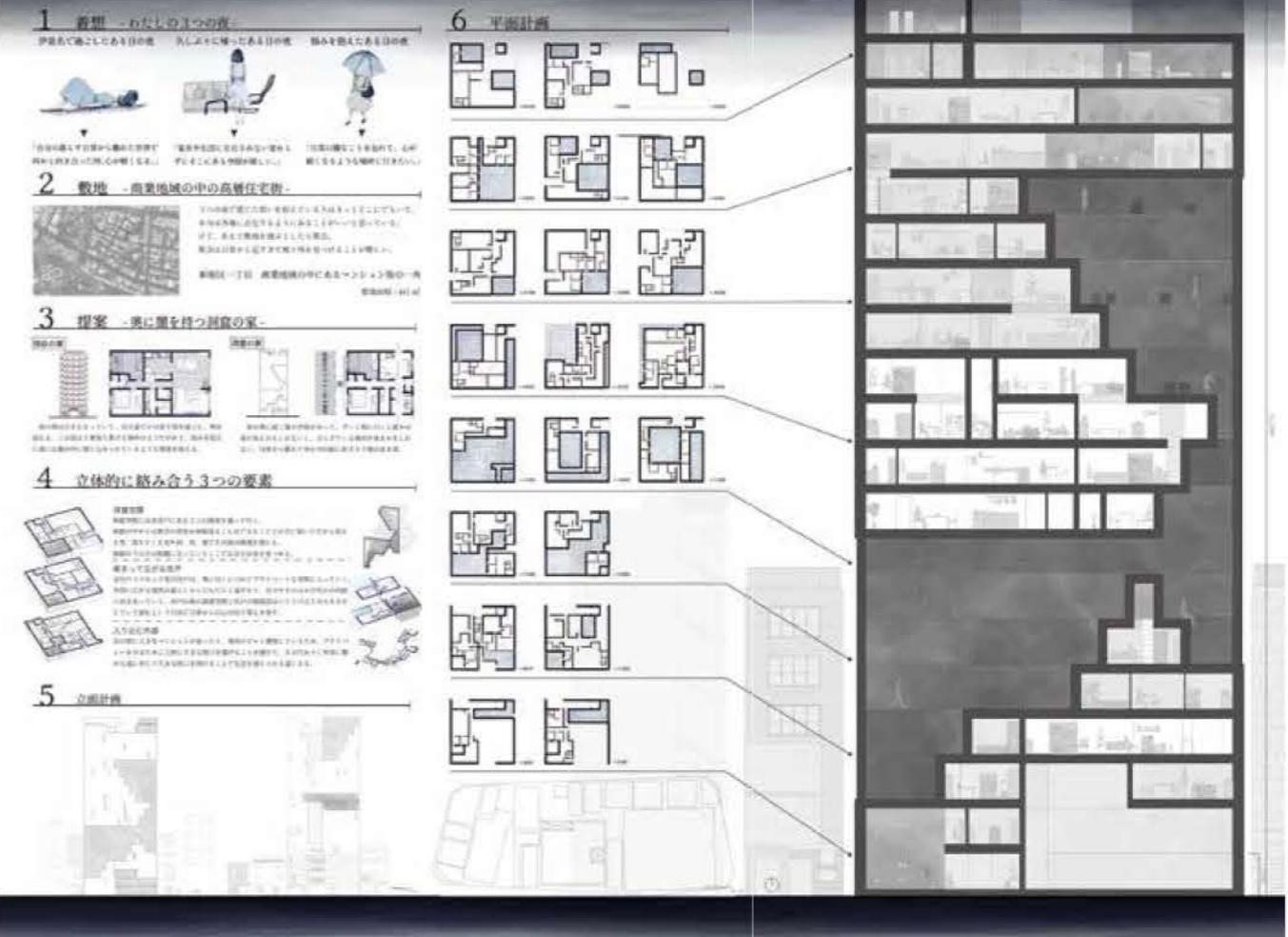
私が体験した3つの夜を軸に、今ある一般的な高層住宅の形を見直し、家と部屋の奥に社会を持つ洞窟の家を提案する。
家を檻に感じる夜は多くの人が体験したことがあるけれど、誰かを傷つけてしまいそうで表に出すのをためらってしまう。
だけど自分が親世代になつたらきっと忘れてしまう気持ちだから、今のうちに未来の自分に向けて建築を通して表現したい。
洞窟で過ごすある日の夜、私の家は体を癒す場所から心も体も癒す場所に昇華する。



作品詳細

箱入り娘の夜

- わたしたちの想いを携えそびえる洞窟の家 -



メゾネット型の住戸 内面を見つめる洞窟 洞窟と住戸が表裏で存在する 寝室にある小さな穴から洞窟に入る

はじまりの風景

どんな気分で、どのような状況でその風景を見るかで、驚くほどその見え方が変わる経験は誰しもがもっている。本作品はそうした異なる「私」からみた世界の驚くべき差異に着目することからはじまる。プレゼンテーションでは、どこへでもつながるように思えた「怒」が、別の日には牢獄の「檻」のように変化する様が、繊細なドローイングで示された。

作者が示した部屋のドローイングは、ルイス・カーンの「ルーム」を想起させる。カーンはものははじまり(ビギニングス)を構想するなかで「ルーム」というドローイングを描き、「建築は部屋をつくることから始まるとそのタイトルを書き入れた。世界の基点であり、

建築の組成としてのルームである。
さて本作において部屋が構成するものとは一体何か。それは建築ではなく「洞窟」と名付けられた深い暗闇だった。間取りの一番奥に配置された寝室が深さ5.3mもある奈落のような空間をかたちづくる。奥行きだけで満たされたこの空間は作者の着想のきっかけとなつた伊豆の海の建築化であり、そのはじまりとしての部屋なのだと理解した。建築を介さず部屋を風景に直結させてしまう、その繊細なインプットと大胆なアウトプットが魅力的だった。



審査員 田村 裕希

今泉 宏太
いまいずみ こうた
東京電機大学 未来科学部 建築学科



No.04



こうじょうのありかた 工場のアリカタ

千葉県長柄町 公共的木材加工工場計画



近年では、「公共建築物等の木材利用の促進に関する法律」が施行されたことや炭素貯蔵の観点から木材の利用が促されており、林業などの生産体制の構築と共に木材加工工場の建設が進んできている。また、工場形態は以前の小規模分散配置ではなく、大量生産やコストなどのニーズに合わせて大規模工場型に移行してきている。

工場は街に対して雇用を増やし、開発を進ませるという経済的なメリットの一方で、騒音や威圧的な雰囲気などで街から孤立しているという現状がある。そこで、工場に地域に開けた空間を挿入することで工場と地域が共存する建築を提案する。工場と地域の接点を作り、工場はただの無機質な生産施設ではなくなり、街の一部となっていく。

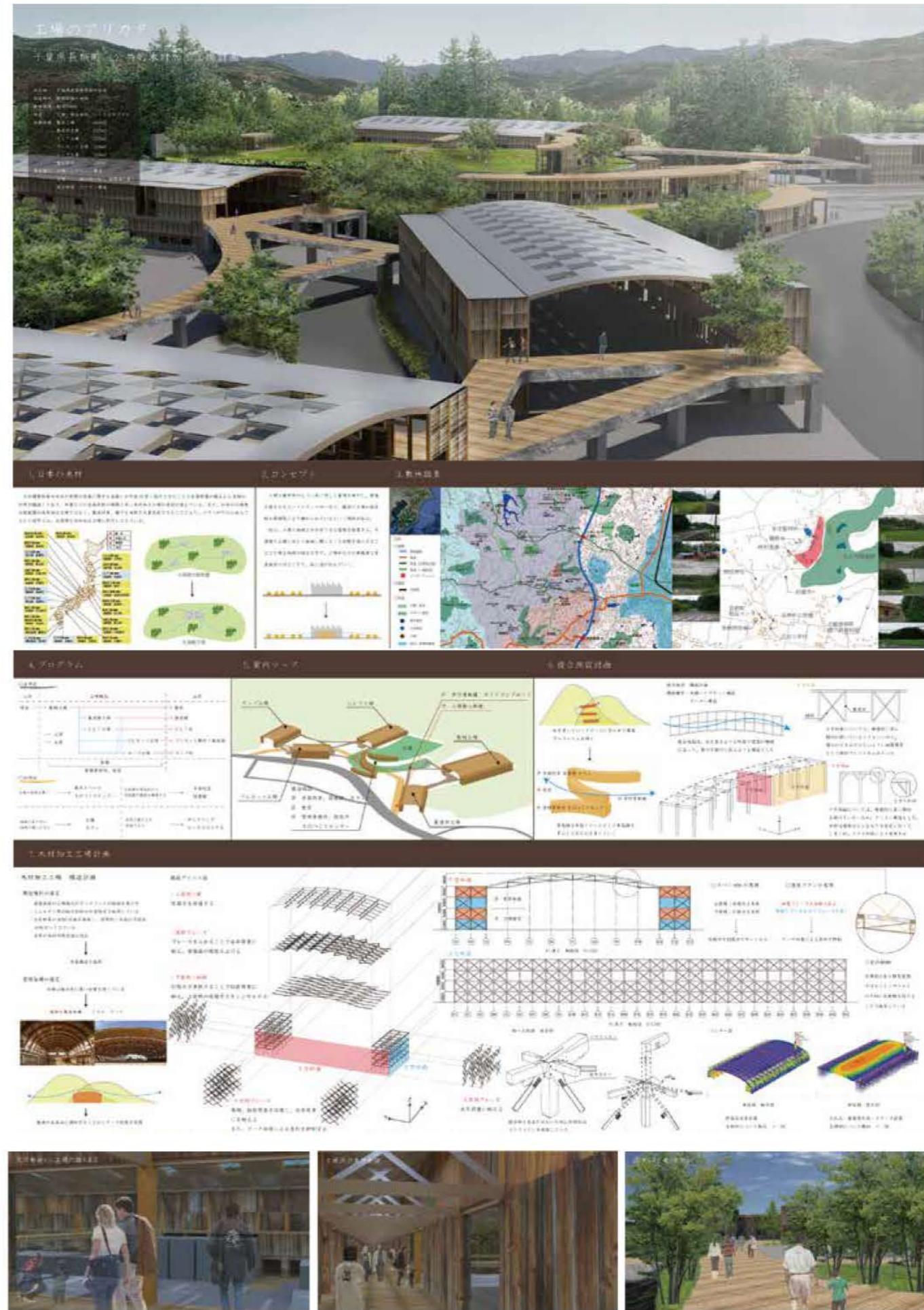
木材加工工場と地域住民の共存をテーマに工場の在り方を提案した作品である。この手の工場を訪れた者であればわかると思うが、敷地はとにかく広く、それぞれの工場は皆既に作業面積が取られている。そのような広大な敷地を地域住民に開放し、融和を図る試みは新しい視点であり理想である。一方、工場は安全管理が重要で、一般人の立ち入りは通常許されない。工場における資材の搬入搬出ルートは地域住民の利用範囲や時間など、工場との棲み分けをする上では重要な点であるが、この辺の説明が作品の中で十分されていなかったのが残念である。

自ら構造解析ツールを用いて構造部材の安全を確認したことは膨大な時間を有したであろうし、その努力は評価したい。また、作者が悩んであろうアーチ梁の接合部に関しては、その魅力がモックアップの中に込められており、作者の意気込みが感じられる作品となっている。

アーチの解説では相当苦労したようだが、下弦材を水平にしてスラストが起きない形状とすれば合理的であり、下弦材は引張力のみに専念され断面は細くなる。結果として大断面集成材のアーチ梁が強調され、工場が得意とする材料をアピールすることに繋がるのである。出展作品の中でも際立って構造を主張した作品であったが、構造のアリカタにも踏み込むことが出来ていれば、より高い評価が得られた作品になっていたと思われる。



審査員 貞弘 清英



鈴木 将真 すずき しょうま
千葉大学 工学部 都市環境システム学科



明日を乗せる“はこぶね” あすをのせる“はこぶね”

応急仮設住宅を再利用した児童宿泊施設と児童館



福島県では、東日本大地震による応急仮設住宅の無償提供が終了しつつあり、役割を終えた仮設住宅をできるだけ再利用し、幅広い用途へ活用していく方法を模索している。

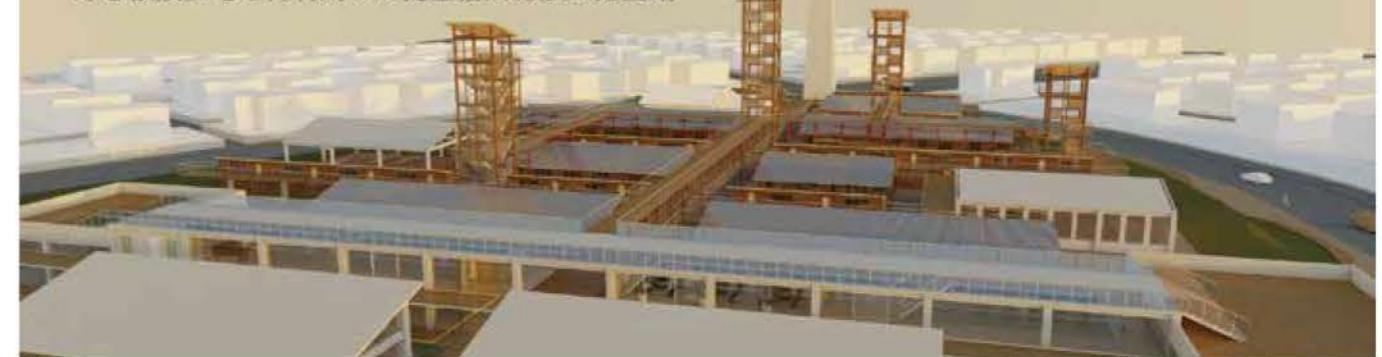
福島県いわき市のいわきニュータウンでも多くの仮設住宅が建設された。ここでは3つの市町からの避難者が居住していたが、市町ごとに10の区域に別れ、避難者たちと既存住民は、交わることなく暮らし続けて来た。また現在、地域内の仮設住宅は解体が進んでおり、この地での震災・復興の痕跡は消えゆき、住民の記憶からも忘れ去られていく。

そこで、地域住民と新たな住人が交流できる施設、仮設住宅の痕跡を地域に残し、被災地の未来を展望できる施設を計画することを目的とし、仮設住宅を再利用した児童館・児童宿泊施設を提案する。



作品詳細

明日を乗せる“はこぶね” - 応急仮設住宅を再利用した児童宿泊施設と児童館 -



審査員 蒲生 良隆

東日本大震災にて建築された応急仮設住宅の再利用を提案した設計である。
通常仮設建物は役目を終えれば解体され新たな施設用地へと変わる。避難中の住人は隣接地の住民とは交流することなく無償提供終了とともに誰も住まない状態から解体をまづぱりとなる。これに対して仮設住宅があつた痕跡を残し児童館(近隣住民用)と震災学習宿泊施設(遠隔地)とし再生させていて敷地形状から船の甲板にみたてシルエットなアセットとしまスト形状の高さのやぐらを組み子供達の遊び場とし水平垂直の交差するデザインとしながら木造の暖かさを出している。子供達にとっては自室のロフトから外部に出る楽しい空間に違いないであろう。忘れ去られる震災とその建築物を宿泊体験しながら子供達に学んでもらう施設という新しい発想であり作者のこれからがとても楽しみでありさらなる活躍を期待します。

No.18



つらなりあうくうかん 連なりあう空間 -港を中心としたオリンピックレガシーの-



2020年東京オリンピックのセーリング会場に予定されている神奈川県藤沢市江の島湘南港。

江の島は1964年のオリンピックレガシーの湘南港により飛躍的に発展した経緯がある。

しかし、レガシーである人工的なヨットハーバーの湘南港と、自然豊

かな観光地の江の島は物理的に一体であるが心理的に分離しているようを感じる。

そこで、島と港の心理的な一体化を図る手法として“連なり”を一つ一つの建築空間に生み出すことで“個々に空間が存在すること”と同時に“一体の空間”として捉えられ、島と港の心理的な一体化ができるのではないかと考えた。

本計画では江の島湘南港に新たなレガシー建築を提案し、江の島と湘南港の空間が一体となることを目指す。

オリンピックの施設として利用後を水際の宿泊施設として活用しながら景観整備をして海から山への繋がりを意識した綺麗な建築となっている。



審查員 蒲生 良隆

江ノ島のヨットハーバー回りは広大なグレーの駐車場が広がっており無機質で冷たい感じであり江ノ島の神社へ遊びに来る観光客はこちらのゾーンには足を運びづらい状況で湘南港とは分断されえいる感は否めない。これを解消すべく島の観光客をさらに呼び込み江ノ島の良さをPRする施設となっている。水辺の水平デザインから山のカーブを描いたセーリングパークの屋根アツキを進むと山のほうへ繋がる。とても柔らかなデザインで白を基調にとても綺麗にデザインされている。磯への散歩道から海釣りアツキ、海の駅へと海を楽しむエリアが計画され是非ヨット置場を散策しながらぶらりと行ってみたい仕掛けがあり気持ちの良い空間となっていることが伺える。水際宿泊施設の設計も魅力的な部屋割となっているのが伝わり美しい作品である。さらに設計力に磨きをかけ建築を追及してください。

作品詳細

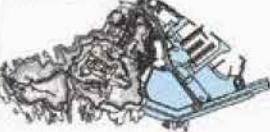
連なりあう空間

連なりあう空間 - 港を中心としたオリンピックレガシーの提案 -



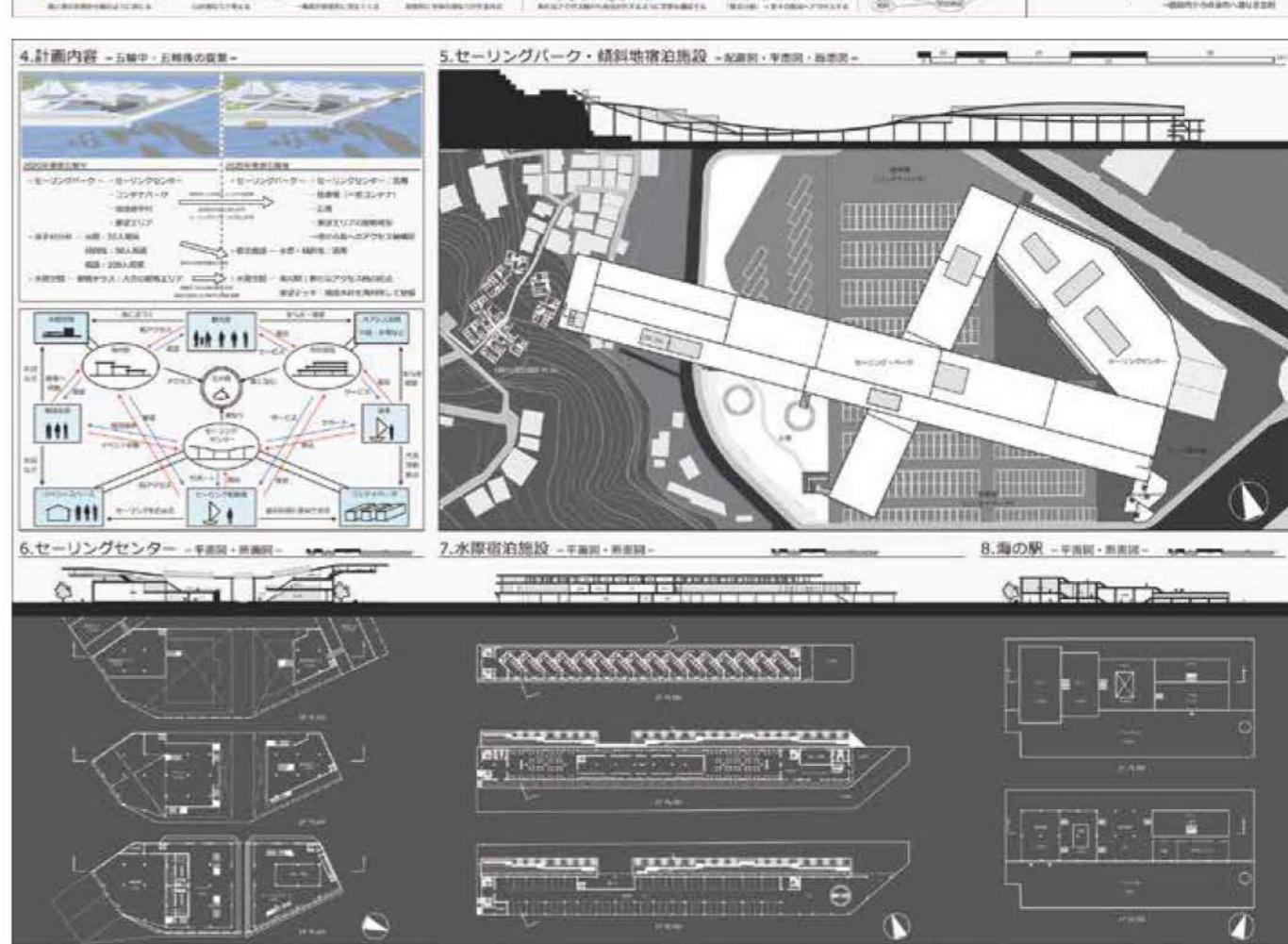
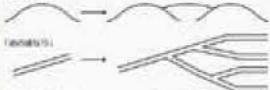
2. 敷地 - 神奈川県藤沢市江の島・湘南源一

2020年新規上場、セーリングセミナーが手掛かっている。開催地は東京駅の近くで、宿泊料金は通常よりも割安だ。◎(2020年)新規上場企業のセミナーは、会員登録を済ませてから、セミナー申込用の専用URLへアクセスして、各自のセミナー希望日を選択する。会員登録は、会員登録用URLへアクセスする。また、会員登録が既に済んでしまった場合は、セミナー登録用URLへアクセスする。セミナー登録用URLへアクセスすると、セミナー登録用画面が表示される。セミナー登録用画面では、セミナー登録用画面の右側にある「セミナー登録用ボタン」をクリックすれば、セミナー登録用画面が表示される。そこで、最初に登録用ボタンをクリックすることを目標に、最初にセミナー登録用ボタンをクリックする。



3. 提案 -目標とする空間・空間構成-

は言ふと、即ち心の世界に「神」が出来てゐる所として、「神」が心の内部を表現する。即ち心の世界は、即ち「神」の世界である。そこで「神」が心の内部と同時に一つつの形態を現出しているのである。それは「神」が心の内部で「神」の世界として現出されるのである。そこで、一つ一つの形態が「神」の世界を現出するのである。即ち心の世界は「神」と現出されるのである。それで心の世界は、即ち心の世界が現出されていること、現出する世界が「神」の世界である。





中根 孝太 なかね こうた

千葉工業大学 工学部 デザイン科学科



融和 ゆうわ

地域に根差し多様な人々が価値を見出せる建築群の提案

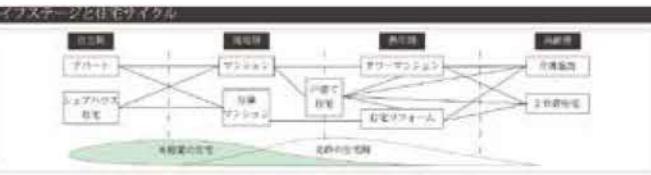


審査員 西山 芽衣

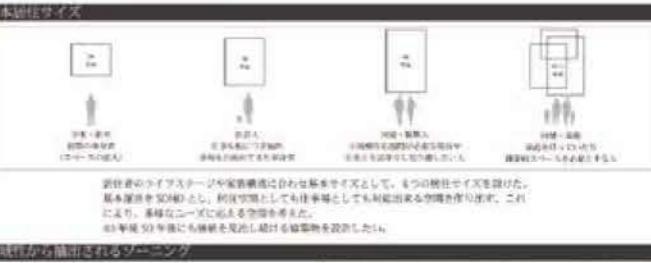
多様化していく人々のライフスタイルを考え、住宅のあり方を問い直した提案でした。借りる部屋の数やサイズによって住まい方を選ぶことができたり、緑豊かな共有部があつたりと、集合住宅だからこそ実現できる豊かな暮らしを想像させてくれました。学生、単身者、ファミリー層といった様々なライフステージや家族構成の人々が共生する、この小さなまちのような集合住宅は、共用部や屋外人場ではどんな出会いがあるだろうと、想像するだけでワクワクしてきます。画一的なプランの住宅でないからこそ生まれる「住み替え」という選択肢は、長期に渡ってこの敷地に住む人の確保と住まい手の新陳代謝へ同時に寄与し、時間が経つても活きのある集合住宅となるのではと思います。本提案を想定されていた

ライフスタイル以上に、住まいに求められる機能や「家族」のあり方、家という場所での過ごし方は今後ますます多様化していくことが予想され、求められる部屋のサイズや個人で所有すべき機能、共有部の役割もどんどん変わっていくでしょう。本提案を出発点とし、人々の暮らしをより豊かにしてくれる未来の住宅の姿を、ぜひ探し続けてほしいと思います。

作品詳細

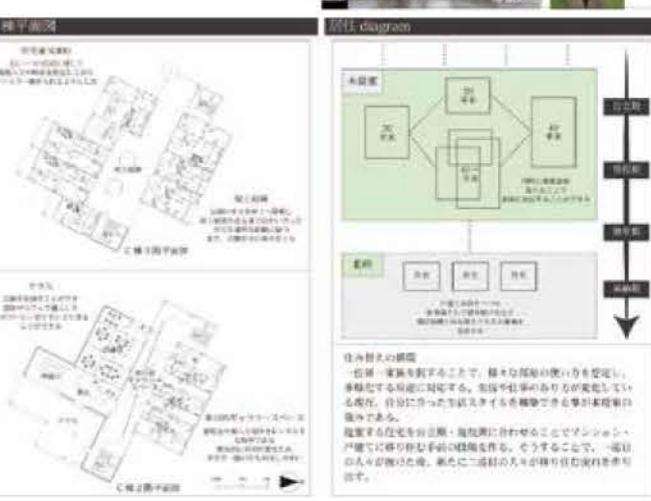


一般的にライフステージは自己実現・育成期・熟年期・高齢期の4つのステージに分けられる。建物はファンションと門地を有し、門地には少頭数ある。そのため、専門的判断としては、専門の後半から高齢者にかけての住宅形態が多いと考える。そこで本提案では自己実現から専門的向けた住宅を考える。



住民のライフステージや家庭構造に合わせ居住を定めて、4つの居住サイズを設けた。基本面積を50m²とし、居住空間としても住居等としても利用出来る空間を作り出す。これにより、多様なニーズに対応する空間をえた。

40年後、50年後にも機動を見出し続ける建築物を設けたい。





きつかけの3坪
きつかけのさんつぼ

小屋を介した行為と風景の観察

完成された住宅街の関係に足を踏み入れることは難しく、ただ玄関を叩き挨拶しただけでは、その地域の関係に馴染むには到底時間がかかる。住宅街の一軒のシェアハウスに住み始めて思った。もっと小さな価値観を共有できるようなアリティのある方法で関係を築くことが現代の複雑化している社会の中の小さな出来事を考える上で大事なのではないかと考え、大きな庭に3坪の小さな小屋を自力施工で制作した。その小屋は一つの建築が立ち上がるまでの全てを教えて、建築の与える周囲の環境への影響力を気づかせるきっかけを作ってくれた。たった3坪ほどの建築を構成する“物”と向き合うことで建築の領域があらゆる分野を横断することを感じられたらと思う。



塚原 諒
つかはら りょう
千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科



作品詳細



01 はじめり

最初から木骨の外壁に取り組むこと困難だったので、柱間を設けた状態で施工。そのため地盤と脚場には何度も移動が必要となる。ちょっとした隙間で床板を打つように柱間にあわせて脚場を高くして置く。これが現行の標準工法ではなかなか出来ないことを示すための意図だった。

02 背景

より豊かなまちづくり
既存のまちづくりがどこよりも、今や間に、縮んでしまった。あれに生き残るためには、またたく間に生まれてしまった土地の資源を活用するためには、必ずやまちづくりの実現が求められる。そこで、現行のまちづくりの問題を解決するためには、

03 管理

管理はひとつの重要な役割である。そのためには、まずは、その土地の特性を理解する。そして、それを理解したうえで、それを活用するための計画を立て、それを実現するための行動を起こす。つまり、一つの目標に向かって、何をどうすればいいのか、それを実現するための手段を考

04 目的

実現されるまち
ここで、まちづくりのアリティとして、また、そのまちづくりの実現をめぐるさまざまな課題があり、それが何をもたらすか、それが何をもたらさないか、それが何をもたらさないかなど、この要素が重要となる。そこで、新規開発に適した土地を選び、そこで、何をどうすればいいか、何をどうすればいいかなどを考

05 設計概要

小屋
木造と既存の建物を接続する部分に木造を設ける。また、全ての面を自然素材にする。ここで、自然素材は使ったことのアリティを示すものなら、構造上口元に木造を施すことを一つの特徴とするべきである。



審査員 西山 芽衣

机上での設計にとどまらず、実際に自力施工で建ててしまうところまでを卒業設計とした姿勢がとても面白い作品でした。リアルな空間が出来上がる過程や出来上がった後の建築を通じて、作者自身が暮らすことになるシェアハウスと周辺地域との関係を築いていくことを目指す手法は、昨今注目されている「タクティカル・アーバニズム」の実践とも捉えることができ、興味深い設計手法だと思いました。また、自力施工という方法を選んだことで、構法やディテールといったところまで考えざるを得ず、制作過程の中で大変学びの多い卒業制作となつたことだと思います。本設計を仮設的実践とし、1/1で制作したからこそその気づきをもう一度設計にフィードバックし、次の展開の提案へと繋げられると、より面白

いプロジェクトになると感じました。この3坪の小屋が、完成したことがゴールとならず、長期的変化のためのパイロットプロジェクトとなり、また新たなプロジェクトの設計へチャレンジし、目指すシェアハウスの形が実現することを期待しています。この卒業制作がスタートだと捉え、この3坪の小屋とシェアハウスのこれからを、ぜひ楽しんではしいと思います。

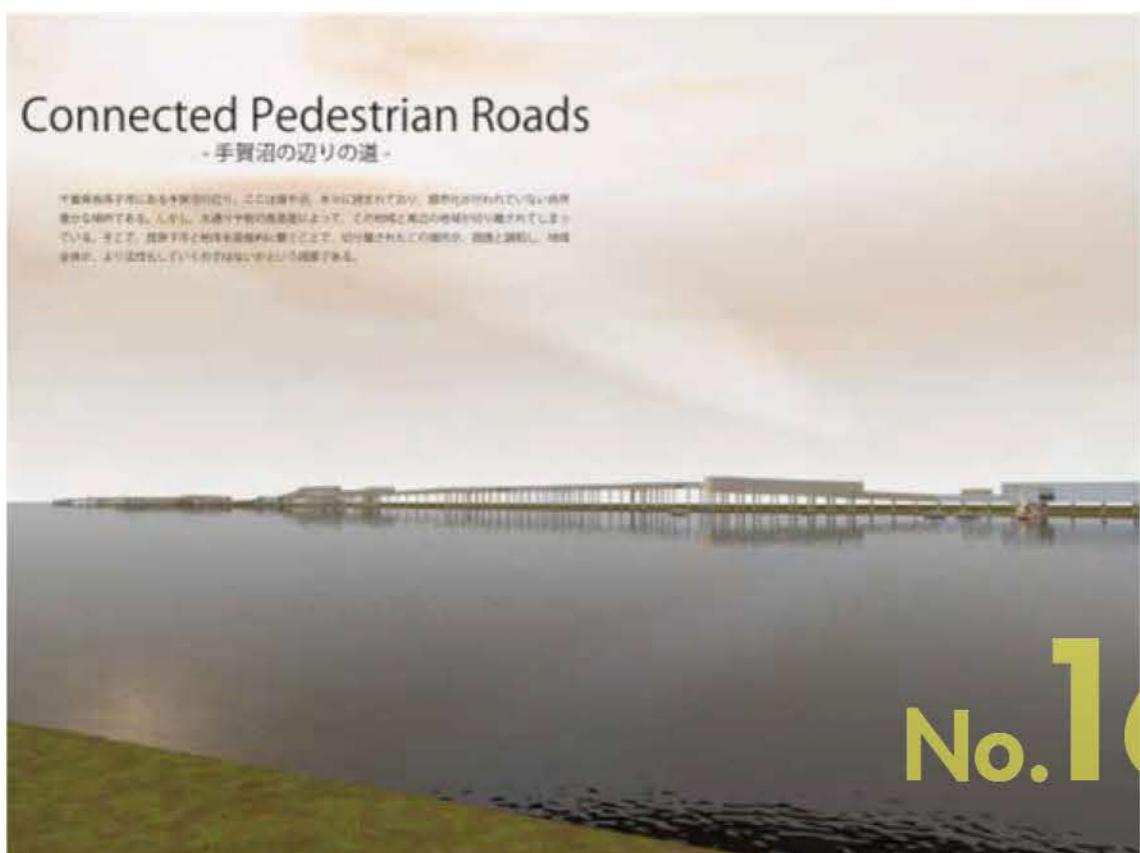
上杉 玲央 うえすぎ れお

日本大学 短期大学部 建築・生活デザイン学科



Connected Pedestrian Roads -手賀沼の辺りの道-

千葉県我孫子市にある手賀沼の辺り。ここは沼や沼、木々に囲まれており、都市化がなされていない自然豊かな場所である。しかし、木通りや駅の基础设施によって、この地域と周辺の地域が切り離されてしまっている。そこで、貢献する手段を考慮めんとして、切り離されたこの場所が、周囲と調和し、地域全体が、より活性化していくのではいかという提案である。



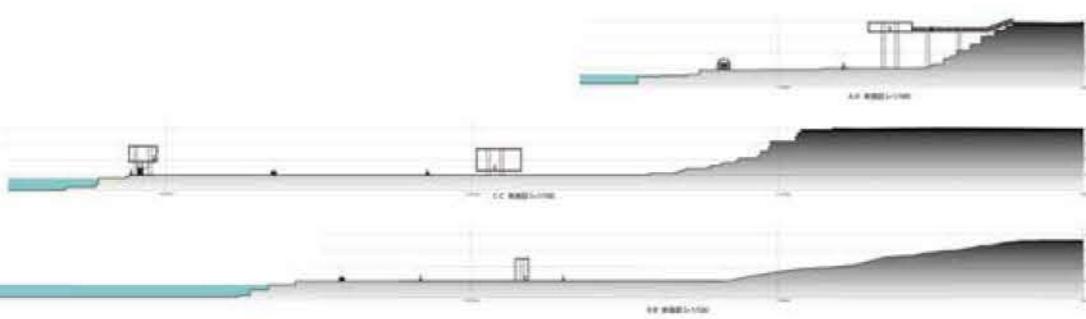
No.16



こねくてつど べですとりあん すかい ろーど

Connected Pedestrian Sky Road -手賀沼の辺りの道-

千葉県我孫子市にある手賀沼の辺り。ここは畠や沼、木々に囲まれており、都市化がなされていない自然豊かな場所である。しかし、沼との間を貫通する大通りや、背後の住宅地との高低差によって、沼畔と周辺の地域が切り離されてしまっている。そこで、行政的に分かれている我孫子市と柏市を直接的に1つの建築で繋ぐことで、都市化が進んだバラバラの風景ではなく、まとまりのある風景を作り出しつつ、切り離されたこの場所を、周囲と調和させ、地域全体をより活性化させるための提案である。そして、敷地の形状、要素から建築を組み立てていくことで、この場に適した空間、用途が生まれていく。



作品詳細

Connected Pedestrian Roads
-手賀沼の辺りの道-ダイアグラム
地図を見るとこの敷地だけ住宅地ではなく、公園と切り離された土地である。

我孫子市の文士人

花火大会風景



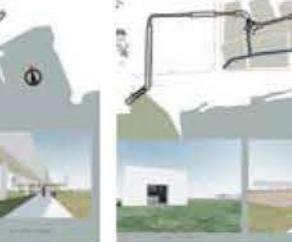
また、公園と公園を繋げたり、そこに既存の道路や小道、花火大会打ち上げ場所の方向に線を引く。また、他の区画割りに線を引く。

各場所の駅近傍地の要素から、用途が生まれる。
(例: ブルーベリー園のミニブルーベリーカフェ)

そのような敷地の要素から、建築を作っていくことで、この場に適した建物となり、周囲と繋がることができるのでないか。



そのような敷地の要素から、建築を作っていくことで、この場に適した建物となり、周囲と繋がることができるのでないか。



審査員 磯野 智由

手賀沼全体の環境を整えようと迫力ある壮大な計画である。ここまで大きなエリアの計画の場合、持ってくるコンテクストも普段の設計手法とは異なってくる。北や南や隣の家の窓がどうのなどの関係のない話になっている。いつものスケールにとらわれることなく卒業設計らしいテーマと思い切った提案で気持ち良い作品だと感じた。デザイン的にはペストリアンデッキという建築を用いて手賀沼に対するダイレクトな関係と柏市と我孫子市を繋ぎ関係と連携を高めたいというもの。それぞれの地域の特色を生かして、その場にそこに合った用途を発生させていることは評価したい。しかしながら、このデッキにより新しい風景は創り出されるが、現況のどかな環境は損なわれてしまう。果たして、この場でここま

No.20



ばすざ たいむ

Pass The Time

一時間暇をつぶせる施設



私の地元新潟県上越市に3年前に新幹線の駅ができた。私が7歳くらいの頃から新幹線が通るといわれてやつと通った北陸新幹線だ。駅は新幹線が通るだけ大きくて迫力がある。だが、その駅の周辺には何もない。しいて言えば、ビジネスホテルと新幹線が通り1年後に作られた食事処、レンタカー屋くらいで、徒歩圏内ではほぼ何もなく、暇をつぶせるような場所もない。

そこで、新幹線が駅に到着する時間の間隔は、約1時間。その1時間を新潟に来て有益だと思い、過ごすことができるような施設を提案する。この建物によって、私の地元である新潟の魅力をそれが本来の目的じゃなかったとしても、体感してもらおうというコンセプトである。

地方における新幹線の駅周辺は開放としており活気が無い。その中の一つでもある作者の地元、上越妙高駅に付随する施設をテーマとした作品である。

駅に近接する施設の目的は、新幹線の発着間隔1時間の範囲で暇をつぶせることで、短い時間の中で郷土の紹介や休息等ができるように計画されている。建物の形状は三角形をモチーフとした雪国を象徴するデザインで、地場産の木材が構造材として使われており、この地に相応しい建物に仕上がっている。

新幹線の駅周辺の建物は一般的に四角形で面白みの無い建物が多い中、本作品は一際目立つ建物であり存在感は抜群であると言える。

作品説明では、駅の平日における利用客の4割以上がビジネスマンとのことだが、その業種や利用目的などリサーチはされているのか気になるところである。計画された施設は、観光目的の来訪者を対象とした一般的な内容であり、この駅の利用客の特徴が反映されているだろうか。例えば、地元優先の商談ルームの提供や地場産製品の商談用の展示など、リサーチの内容によっては、ここならではの施設として新たな提案が出来たのではないかと思う。少なくとも商用施設として提案している以上、利用客のリサーチは大事である。この部分が補完されていればより良い作品に仕上がったと思われる。



審査員 貞弘 清英

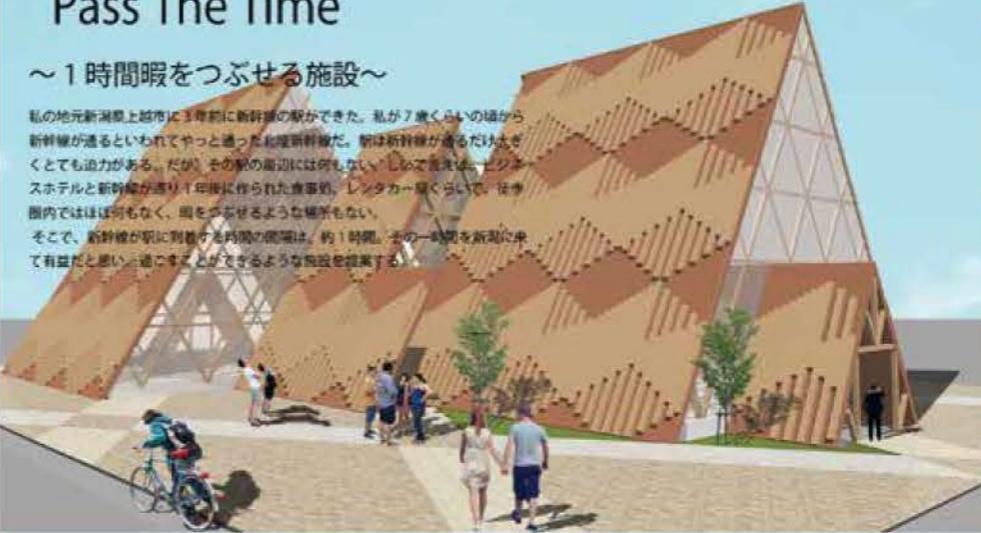
作品詳細

Pass The Time

～1時間暇をつぶせる施設～

私の地元新潟県上越市に3年前に新幹線の駅ができた。私が7歳くらいの頃から新幹線が通るといわれてやつと通った北陸新幹線だ。駅は新幹線が通るだけ大きくて迫力がある。だが、その駅の周辺には何もない。しいて言えば、ビジネスホテルと新幹線が通り1年後に作られた食事処、レンタカー屋くらいで、徒歩圏内ではほぼ何もなく、暇をつぶせるような場所もない。

そこで、新幹線が駅に到着する時間の間隔は、約1時間。その1時間を新潟に来て有益だと思い、過ごすことができるような施設を提案する。



～新潟県上越市とは～
今回の候補地である新潟県上越市は人口191,835人、面積973.6km²の新潟県西部に位置する地域である。

新潟は、四季の変化がはっきりしており、冬は雪量が多く観光地としても有名である。そのため、春は桜、夏は蓮、秋は紅葉、冬は雪などと四季を感じることができる地域である。

～上越妙高駅とは～
上越妙高駅は新潟県上越市大和五丁目（旧鶴田町）の土地に北陸新幹線が開業されるに当たって、改称された新幹線の駅である。

上越妙高駅の平日利用者は、約3900人であり、ビジネスが目的で利用する人が4割を超え、その後に多くの観光目的の利用者の割合であった。
(2017年12月現在)

*インターネット引用

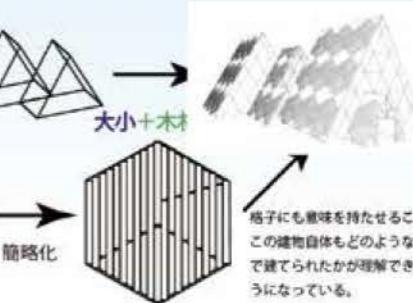


～気候の特性から～

新潟県は他県よりも比較的多く雪が降るため、それに応じて木の多い三角形という形にした。そこからその数を増やし、上越妙高駅に木が多く用いられていたことから木材を主とした建物とした。



～made in JOETSU～
このマークは「made in JOETSU」の認証マークによって、この地で生まれた工業製品や特産品であることをオリジナル性、信頼性、市場性、地域性などの観点から審査し、認証された製品のことを言います。

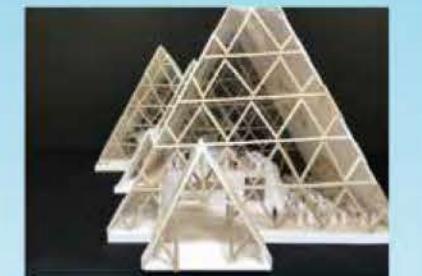


～上越妙高駅周辺～
上越妙高駅周辺は、上越妙高駅は新潟県上越市大和五丁目（旧鶴田町）の土地に北陸新幹線が開業されるに当たって、改称された新幹線の駅である。

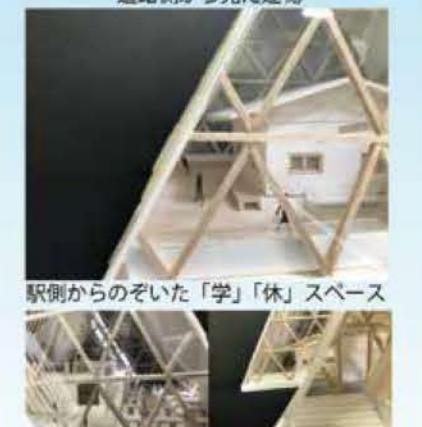
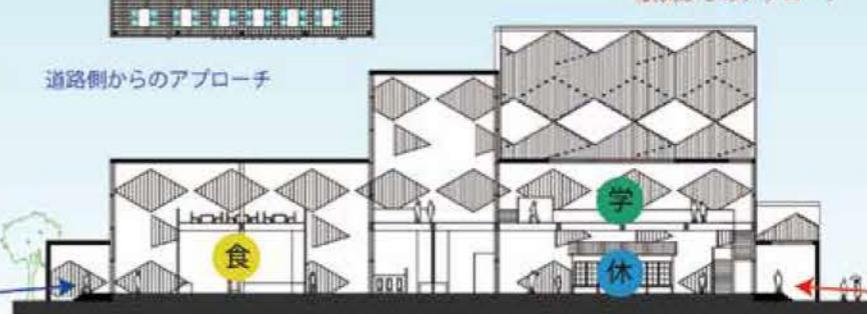
上越妙高駅の平日利用者は、約3900人であり、ビジネスが目的で利用する人が4割を超え、その後に多くの観光目的の利用者の割合であった。
(2017年12月現在)

*インターネット引用

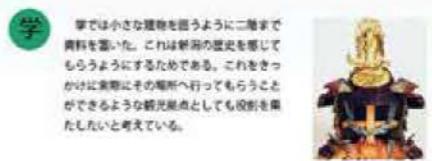
～人の流れと場所の役割～



道路側から見た建物



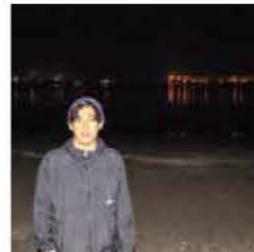
駅側からのぞいた「学」「休」スペース



駅側からのぞいた「食」スペース

鈴木 和 すずき なごみ

千葉職業能力開発短期大学校 住居環境科



作品詳細

No.03



行川アイランドの再生計画
なめかわあいらんどのさいせいけいかく
リゾート跡地に作りグランピング風宿泊施設



リゾート施設の設計では利用者が日常生活では感じることのできない非日常的な空間にすることが重要である。現代社会で生活している人々は常に時間に追われ、四季の変化や「何もしない時間」を楽しめていない。グランピング自体は「なんにもしないことをする」を基準として考えられている。いつも肌身離さず持っている携帯電話を置き、頭をリセットしたり絵や字を書いたり本を読むことなど普段できないような過ごし方をすれば時計の針がゆっくりと進むようなひとときが楽しめると考える。

そのため、各施設の空間の作り方や宿泊棟からどのような景色が見えるのかを考えながら設計した

行川アイランド再生計画 リゾート施設跡地に作るグランピング風宿泊施設



何もしないことをする

リゾート施設の設計では利用者が日常生活では感じることのできない非日常的な空間にすることが重要である。現代社会で生活している人々は常に時間に追われ、四季の変化や「何もしない時間」を楽しめていない。グランピング自体は「なんにもしないことをする」を基準として考えられている。いつも肌身離さず持っている携帯電話を置き、頭をリセットしたり絵や字を書いたり本を読むことなど普段できないような過ごし方をすれば時計の針がゆっくりと進むようなひとときが楽しめると考える。

そのため、各施設の空間の作り方や宿泊棟からどのような景色が見えるのかを考えながら設計した



開園当時

放置された施設
なっている

審査員 関谷 和則

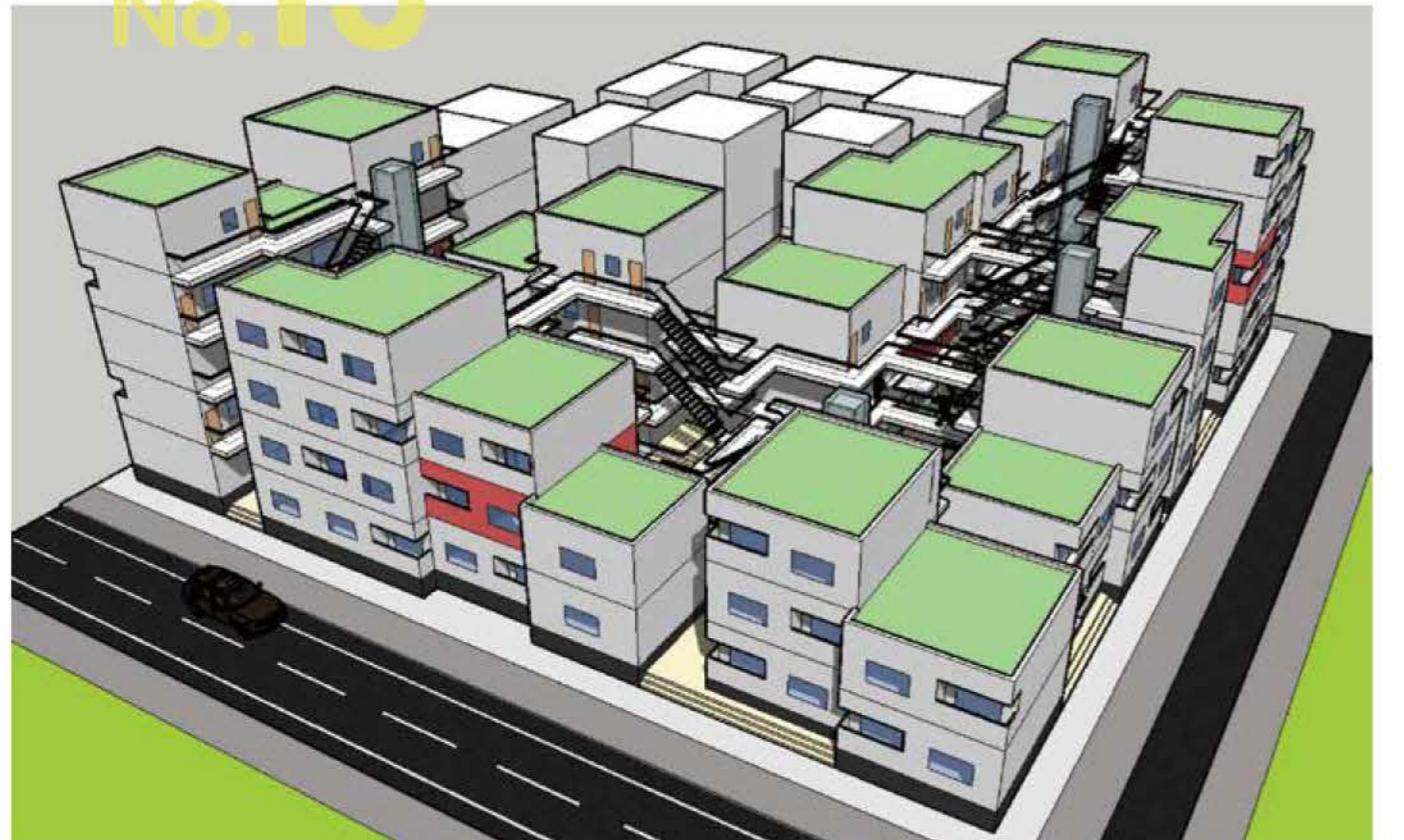
2001年8月に閉園となった千葉県勝浦市浜行川の動植物園レジャー施設跡地を、ホテル並みの設備やサービスを利用しながら自然の中で快適に過ごすキャンプ・グランピングを提供する施設として再生させる提案である。駐車場から施設内部に入るためには、洞窟のようなトンネルを抜けなければならず、このドラマチックな敷地特性を活かした全体配置計画を開展している。太平洋に面した浜を俯瞰する斜面には、筒状の長方形プランの客室を等高線に直行する方向に点在させ、海が切り取られた非日常の風景と人びとを対峙させることを意図しており、「働き方改革」にみられるように「余暇の楽しみ方」に社会課題があると捉え、それに応えようとしている。「何もしない時間を確保することはひとつとっても重要」という説明を聞いて、大変共感した。

奨励賞

上田 堅登 うえだ けんと

千葉県職業能力開発短期大学校 住居環境科

No.13



にちじょうのたまもの

日常の賜物

交流を促す福祉施設兼用集合住宅



審査員 関谷 和則

少子高齢化の影響下には単独世帯や共働き世帯、高齢世帯が増加して世帯数の増加及びライフスタイルの多様化が顕在化している。

単独世帯は孤死のケースが多いこと、子供のいる共働き世帯では子の教育に時間を費やせないこと、高齢世帯は怪我や病気のリスクが高まるといった問題が挙げられる。

そこで児童・高齢者福祉施設を併設させた、つながりを持った集合住宅を提案することで、保育施設に子供を預ければ子供の面倒をする負担の軽減につながり、高齢者が日帰りで介護を受けられるデイサービスを通して、孤死の防止やストレスの軽減につなげて、この集合住宅に住まう人だけでなく外部の人もこの福祉施設集することで様々な価値観を共有し合える外部に開かれた空間となる。

様々な「暮らししかた」に応えることができる“RC壁構造の集合住宅”を実現したいという、強いメッセージが込められた提案である。東京湾アクアラインの千葉県側木更津市の玄関口にあたる敷地を選定し、東京への利便性が高いとともに、緑や沼が広がる自然ある環境を享受できることを意図している。様々な部屋数で構成された住戸を組み合わせた集合住宅は、人が歳を重ねることによって変化していく“ライフサイクル”に呼応する住戸となっており、柔軟性ある「暮らし」をかたちにしている。また、世代を超えて集まって住むことを実現する共用機能が付加されており、コミュニティの創出も意図されている。建物(ハード)としての提案と共に、新しい暮らししかた(ソフト)の提案が付加されれば、もっと魅力的な計画にすることができると思う。

作品詳細



2階平面図 1/100



1階平面図 1/100

ライフスタイルの多様性を持たせるために
隣られた住戸ユニットのみで構成するのではなく、
家族構成に合わせていくつかの間取りを考案し、
それにより子供と孫親で利用ができる
ものになる事でそれぞれの需要が往復ための
住戸ユニットに加えて好みに合わせた自由な
空間を利用することができればお互いの空間の
選択が可能となり、それでも住まえるプランを考え、
アネックス(廊下)の空間では、他の空間に比べて、
パソコンの普及によって会社勤務しない業務専用に
50cm幅があり、ライフスタイルの要素として、
この空間を設けることを考えた。

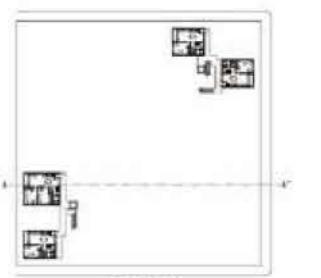
保育施設に子供を預ければ子供の面倒をする
負担の軽減につながり、子供の預け放題まで
活用する良い生まれれる。
高齢者が日帰りで介護を受けられる
デイサービスを通して、孤独の防止やストレスの
軽減につなげて、この集合住宅に住まう人
だけではなく、外部の人もこの福祉施設に
集うことで様々な価値観を共有し合える
外部に開かれた空間となる。
その結果この複数で提供される
日々の機能となる。



3階平面図



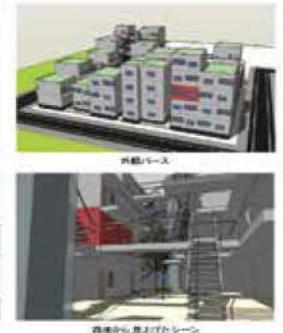
4階平面図



5階平面図



内側シーン



外側ベース



内側廊下・階段のシーン



西側から見上げたシーン

福祉施設部分

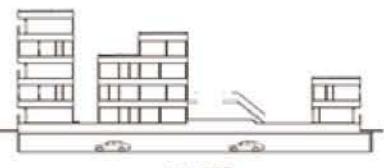
施設運営から経営にかけて集合住宅の内にメイドインを行なう。
施設の入り口を直に通すことで直接的に接続が可能にして、
施設の入り口で施設を出てそのまま集合住宅に入れる。
外構設計では戸門の位置取りが重要になっていて、最も重要な位置として玄関
アプローチまでの位置取りで、施設を直進した後施設の位置は
タビリックスの集合住宅を参考してみて内側から玄関が入り込んだ
構造にして上げた。戸門位置は施設をなくすことによって住戸は最も多くなる
方向に配置して内側から玄関が入り込んでもらいたい。
玄関位置を内側から見て左側に設けており、戸門コートは
より多く利用できるようにした。また、各階廊下に子供のことを考慮して
施設が設置してあるので、施設の位置を確保しないで設置した。
廊下が設置してから施設を設置する事で、施設の設置面積を縮小する
戸門の位置と施設が同じして、最も重要な位置として玄関の位置が確保された。
一段階以内の距離が10m程度の距離で、玄関が設置された。
子どもにとって、施設を直進して施設を利用することができる。
施設の入り口は施設を直進して施設を利用することができる。
内側廊下に施設を設置して、施設を利用することができる。
内側廊下に施設を設置して、施設を利用することができる。

家族構成と交流を生み出す住戸プラン

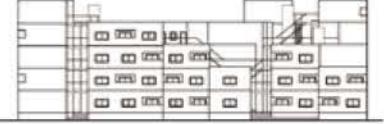
施設構造としては施設を南北にカットするそのまま複数部屋に分離させて
施設での機能に沿って一部を分離させた。
その南北に各自で使用していくが、ユニットに近づきそれぞれの
施設が独立して個別的なものとなる。
RC構造、サード方式で施設を設置することで
施設につながりを持たせながら施設が、やすい形で仕上げられる。

RC構造で施設を設置して、施設に多くの住戸を配置するのが課題なため、
内側の廊下では施設を設置していない。

住戸空間では本腰付を採用し、ハムスターの形の丸太柱は通路空間が
可能となる。ハムスターは高齢者の歩き方で腰筋のひざ筋を強化する。
腰筋が強化されると、ハムスターの歩き方で腰筋のひざ筋を強化する。
腰筋が強化されると、ハムスターの歩き方で腰筋のひざ筋を強化する。
腰筋が強化されると、ハムスターの歩き方で腰筋のひざ筋を強化する。
腰筋が強化されると、ハムスターの歩き方で腰筋のひざ筋を強化する。
腰筋が強化されると、ハムスターの歩き方で腰筋のひざ筋を強化する。
腰筋が強化されると、ハムスターの歩き方で腰筋のひざ筋を強化する。



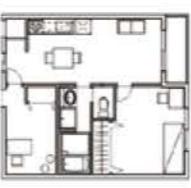
A-A' 断面図



南北立面図



1LDK



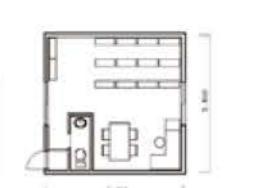
1LDK+フローム



2LDK



アネックス（小）



アネックス（大）

審查経過



佐々木 達郎 ささき たつろう
審査コーディネーター

第31回千葉県建築学生賞は、昨年より2作品少ない、21作品で競われた。大学名を伏せての公開審査は、出展者への質疑応答を踏まえた、7名の審査委員間での討議、投票、挙手による丁寧な審査により行われた。

〈公開プレゼンテーション〉

大型プロジェクターを利用して、1作品あたり持ち時間5分のプレゼンテーションを登録番号順に行つた。すべての発表者が、作品の要点をまとめ、思いが伝わるプレゼンテーションを行つた。

〈審査委員による作品巡回〉

全21作品のプレゼンテーション終了後、審査委員が個別に、各作品のプレゼンテーションブースを巡回し、作品をさらに読み込んでいく質疑応答の時間とした。各審査委員が気になる作品に対し、質疑応答により作品の理解を深める重要なプロセスとなつた。



次審査:2次審査に進む9作品を選出

次審査は、プレゼンテーションと作品巡回を踏まえ、先ず
21作品に各審査委員の指標に基づき、評価する作品に優
秀者に付ける投票を実施(全作品に9. 5. 3.1点を付ける)。

投票結果から、47点得票(作品番号10)、37点得票(作品番号1)、35点得票(作品番号1.14)、29点得票(作品番号9)、27点得票(作品番号5.6)の点数の高い上位7作品を先ずは1次通過作品として選出。その後、20点以上を獲得した作品番号19.21の4作品について、審査委員からのコメント、批評、授賞を行い、挙手にて1次通過作品を決める手続きとした。作品番号2.8が共に3票獲得したため、2作品共通過とし、計9作品を通過とし1次審査を終えた。

次審査:9作品から3作品を選出

次審査は、選出された9作品の模型を審査会場の中央に並べて、模型を囲みながらの審議を行った。

次審査で点数が高く先に通過した7作品を中心に、各審査委員が気になる作品へコメント、審査委員間討議を行った。作品について、一部作者への質疑も行なうながら、密度の濃い討議を行った。



その後、投票を実施し、14点得票1作品(作品番号17)、9点得票作品(作品番号10)、6点得票1作品(作品番号14)、5点得票1作品(作品番号1)、4点得票1作品(作品番号9)、2点得票2作品(作品番号6,8)という結果となった。

上位、3作品(作品番号17、10、14)を最優秀審査の対象とし、2審査を終えた。

別賞審査:21作品から2作品を選出

特別賞は、最優秀審査へ進む上位3作品を除く全ての作品を対象に、総合評価軸では上位3作品に及ばなかったものの、ある評価軸について抜きんでて優秀な作品を選定する賞である。

各審査委員に、特別推したい作品の有無が確認され、その上位作品に点数(審査委員持点4点を分配)をいれる投票を行った。その結果「痕跡の行方(8)」「カタチのアラフレ(21)」が選ばれた。

優秀審査:2次審査投票結果から最優秀賞1作品、優秀賞2作品を選出)

次審査の得票結果から選出された3作品に対し、各審査委員からのコメント・批評に加え、作者への質疑も踏まえ、丁寧に議論が行われた。議論が熱したところで、各審査委員が最優秀としてふさわしい作品に1票を投じる投票を行った。その結果4点得票を獲得した「水都の樹冠(10)」が最優秀賞に選出され、次いで2票を獲得した「小さな沈黙、繙く支度(17)」、1票を獲得した「海産礼賛(14)」を優秀賞に選出した。

A出展:3作品を選出>

最優秀賞、優秀賞の上位3作品が、JIA全国大会出展作品に選ばれた。

第31回千葉県建築学生賞

作品リスト・市民の声

アンケート回答者データ集計

No.01



市民の声

アイヌ・アカデミックセンター
旧絵画小学校を活用した民族共生空間の提案
島田 大輝(しまだ たいき)
千葉大学 工学部 都市環境システム学科

一次審査結果 : ○ 二次審査結果 : ---

奨励賞

最近の人はアイヌのことをあまり知らないのではないかと思ったので、この「アイヌ・アカデミックセンター」はアイヌについて理解や体験などが出来る貴重な場所だとと思う。ぜひ、校外学習や修学旅行で行ってみたい。/カッコよすぎる。/現代における少數民族の減少に着目した点が面白く、ある意味問題提起にもなる作品だと感じた。/地に足の着いた、使いたい人に寄り添ったテーマを具現化する空間の提案は素晴らしい。突出はしていないが人のための建築だと思う。/高校校舎の特性を上手く使い、日本の構文・アイヌ民族多様性といったグローバル視点と防災観光などの地域性を考えた。現実的且つビジョンに富んだ作品だと思う。よく背景を考え、機能も設けている。/面白い。/アカデミック施設らしい構造で現実に近い。/先住民に対する敬意のようなものは語りついでいく必要があると感じた。/施設の有効利用はとても良い着眼点だと思った。/北海道出身ということで、興味深かった。内部空間をもう少し深く計画してもいいのではないかと思った。

No.02



市民の声

“あたりまえ”的風景
生活に寄生する地域活動の場
小山 佳織(こやま かおり)
日本大学 生産工学部 建築工学科

一次審査結果 : ○ 二次審査結果 : ---

千葉県
建築設計士が
選ぶ作品賞

地域の活動がレイヤーに分かれ表現されていて、明快で楽しい建築。/主婦としてとても興味が湧いた。近い将来このような商業施設が出来るのはとても楽しみ。/建築のことは何もわからないが、広い空間にいろいろな建物があって凄いと思った。構造が気になった。/町と人の繋がりを強くしたい。地域を知ってもらえた建物をつくりたい!という感情が伝わってきた。建物と人と町は切っても切れない縁がありますよね!オフィスビルで同コンセプトを研究しているので、楽し々見させてもらった。模型やプレゼンボードがとてもわかりやすく参考になった。/商店街から続く道全体を大きくスロープ動線にすることとてもダイナミックに感じた。全体をあけることで自然に2つの商店街がつながっていて、歩いているととても入りくなるものだと思う。模型もスロープ部分が自然で驚いた。/商店街を持ち上げて下に違う空間を作る発想が凄いと思った。/商店街を上に持ち上げて店をつなげていくのはとても魅力的だった。模型も細かくわかりやすかった。/とても細かく設計できた作品。/OKストアに目がいった。

No.03



市民の声

行川アイランドの再生計画
リゾート跡地に作るグランピング風宿泊施設
鈴木 和(すずき なごみ)
千葉職業能力開発短期大学校 住居環境科

一次審査結果 : --- 二次審査結果 : ---

奨励賞

生まれ変わった行川アイランドをぜひ作って下さい。その時は遊びに行くので、頑張って下さい。/周りの風景とのギャップがあり、魅力を感じた。/実現してもらいたい。/(近くを通るたび悲しくなるので)行川アイランド再生計画、ぜひ可能にしていただきたい。/再生計画に興味がある。/先輩の作品で、流石だと思った。/素晴らしい。/現実的な提案だと感じました。

No.04



市民の声

工場のアリカタ
千葉県長柄町 公共の木材加工工場計画
今泉 宏太(いまいずみ こうた)
東京電機大学 未来科学部 建築学科

一次審査結果 : --- 二次審査結果 : ---

奨励賞

実現された時、実際に集客力があるかは疑問だが、一度は行ってみたいと思う。/構造計算まで行っていて好感が持てた。/とても素晴らしい。/姿が美しい。建築のことはわからないが、接合部模型を見るよくわかる。/努力と真剣さが伝わる。しかし、もっと楽しいアイデアであればと思う。/木材を多用していて、素晴らしいと思った。/構造をしっかり考えていて素晴らしい。/感動しました。

No.05



市民の声

見えない感覚で
視覚障害者の空間把握の視点から
坂田 晴香(さかた はるか)
東京理科大学 理工学部 建築学科

一次審査結果 : ○ 二次審査結果 : ---

千葉県
建築設計士が
選ぶ作品賞

レベル差を使い、楽しそうな雰囲気を上手く表現できている。着眼点が良く、人体の感覚と建築を上手に結びつけている。/見えない状態をプレゼンするのが難しそう。/アリアフリーで様々な方の使い勝手が考えられた作品で惹かれた。グローバルデザインが良い。/視覚障害者の視点から建築を見たことはなかったので、目から鱗だった。/視覚障害者と知り合ういうことが最近あり、全盲の生活とはどのような不便さがあるのかとても気になっていた。いろいろな情報はラジオやCDなどで得ていて、ほとんど不足ということはないと思っていました。/視覚障害者の事を考えており、壁をつたって全ての部屋を通ることが出来るというのは素晴らしい考え方だと思う。壁をつたって行きたいところへ行けることは障害者の方にとって充実した空間になると思う。自身は障害者の気持ちちはわからないため、よく考える必要があると感じた。/設計趣旨を意識した建物となっていたと思う。相手の視線に立った建物となっており素晴らしい。

No.06



市民の声

大谷知新
石の苔みによって生まれた地域資源の再編
中野 拓磨(なかの たくま)
東京電機大学 未来科学部 建築学科

一次審査結果 : ○ 二次審査結果 : ---

奨励賞

とても地形が美しい。/今の「鏡羅のままにしよう」という考え方ではなく、時代と共に変わるというのが面白い。/独特の空間を創造していた点が良い。他の作品より空間のイメージがつくられている。/素材の組み合わせが上手いと感じた。/デザイン性がアクティビティ感もあって楽しそう。/落ち着いた色の建物が自然の良さをなくさず一体感があつて格好良い。/大谷の地形を生かすというコンセプトの中で独創的である。/一目で引き寄せられました。/忘れない何かがあります。/産業遺産が各地にある中で、今回の作品は空間をうまく生かしていると感じた。/素晴らしいデザイン。

No.07



融和

地域に根差し多様な人々が価値を見出せる建築群の提案
中根 孝太(なかね こうた)
千葉工業大学 工学部 デザイン科学科

一次審査結果 : --- 二次審査結果 : ---

奨励賞

市民の声

現実的で今すぐ実現できそう。/本々の一つの先の緑や水が流れる川の川らめき、流水により少し削れた大地などの、アリティがとても素晴らしい感動した。/人とのつながりを大事にしている感じがして良い。/細やかな設計。/面画がかなり細かく描かれていて、素晴らしいと思いました。/建物があえて路地を作る発想が面白いと思いました。/私の考えていること近く、共感でき、参考になりました。/製図がうまいと思った。字も綺麗で読みやすい。

No.08



痕跡の行方

生を具現化した風景がつくる死と人の新しい距離感
根本 一希(ねもと かずき)
日本大学 理工学部 海洋建築工学科

一次審査結果 : ○ 二次審査結果 : ---

特別賞

市民の声

なかなか難しいテーマを建設に取り入れた感じが面白いと思う。/人がいたという特殊な空間を作り出しておりイギューラーだと思った。/非日常的な新感覚な感じが良かった。/土葬の操作という人がいたと定義しているのがとても良い。/死についてよく考えることがあるのでとても興味をそそられた。月日が経つにつれ土葬の建物が樹木葬に変わっていくのも自然の流れの一つで、死もまた同じだ感じた。/生と死を建物が崩れていく様々な要因で表現していることに感動した。震災などで多くの建物が一回で壊れると、そこに居た人のことも思うが、1つの建物でも実感できるのだとかわかった。既存部分と新しいくりこみ部分の見分けがわからにくかったが魅力的だった。昨今、街が変化しきっています。その中で、将来どのような建築が人間と関わっていったら良いのかを考えられる提案だと思います。自分のことを想像してみた時に、こんな場所であつたらしいなと思ったのです。/死との共存がとても素晴らしいと思いました。/古い土地の再生は大きな課題だと思います。現実の再生に結び付けられるといい。

No.09



表裏の営み

そして、境界は消える
三枝 亮太(みえだ りょうた)
千葉大学 工学部 建築学科

一次審査結果 : ○ 二次審査結果 : ---

奨励賞

市民の声

難しそうだが実現可能なのか?現在も増えている失業者のために最低限の生活が必要と考えていたので、ホームレスの方の施設を作るという発想は良いなと思った。木に重みを感じるような設計だった。/温みの感じられる建物。/移り住みなくなる。/ホームレスの気持ちを考えたことがありますでした。この作品を見て、心が動かされました。/非常に驚いた。素晴らしいと思います。/建物と緑化のバランスがいいと思った。/大都市部での都市再生は難しい問題であるが、これに対して平面的、立体的に機能を分けることによって解決策を提示している点がとても良かった。/西側に驚いた。実現して欲しい計画。/円形の廊下が印象的、実現して欲しい。/自分が住んでみたい街だと思う。/共有するスペースが多く、近所付き合いも広がりそう。

No.10



水都の樹冠
ゼロメートル地帯の道しるべとなる防災・避難公園
勝部 秋高(かつべ あきたか)
日本大学 理工学部 海洋建築工学科

一次審査結果 : ○ 二次審査結果 : ○

最優秀賞

市民賞

JIA
出展作品

市民の声

普段が良い。/市民的にはこの作品では?夢があり、実現してほしい。/生活空間がそのまま空に押し上げられて面白い発想だと感じた。住んでみたいと素直に思った。/模型のインパクトが一番あった。細部までこだわっているなど感じた。実際にこのような防災公園に行ってみたいと思う。/オシャレ。以前、お台場で行っていた未完成建築コンセプトのものに似ている。ただ、安全性が不安。/災害の起こりやすい場所の避難経路を浮かして避難しやすくしたこと、それがとても細かく再現されている面白い。/個性が溢れていて全ての世代の人々が楽しめた。/建物そのものが楽しかった。/模型のスケールが驚いた。/細かい所まで考えられていて素晴らしい作品だった。この作品を見て、水没について考える良い機会になった。津波の危険に常にさらされている江戸。エリアの住民がいかに充実した生活をおくれるか、また、いざという時にいかに非難するか、ユニークな発想のもと作られた作品だと思った。

No.11



きっかけの3坪

小屋を介した行為と風景の観察
塚原 諒(つかはら りょう)
千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科

一次審査結果 : --- 二次審査結果 : ---

奨励賞

市民の声

身近に感じた。/とても気に入った。ただ、少し木が不安。/学生時代に小さいながらも本物の建築を作るという行為を通して得たものはとても大きいと思う。竣工写真は天気の良い日に撮りましょう。/自力施工したことがえらい。/住ませて下さい。/実施設計が素晴らしい。/住宅街といっくは建成された場所に対して小さなきっかけを作る提案で、1棟1棟が離れて関係を持たない日本の住宅街に対し建築的な役割を果たしていると思う。/実際に1/1で作品を作っていて、現場ならではの発見があり、建築を楽しんでいるように感じた。/他作品のほとんどが設計と模型の組み立てで完結する中、実際に施工して実現していることにとても魅力を感じた。「設計+施工」と言う考え方を増えて欲しい。/小さい敷地のベースを利用した簡単な構造で素人でも作れるような建物である。/作ってみたいと思わせる作品。/1/1の作品をつくったうらやましさ建設プロセスにおける周囲との関係、今後の様子も気になりました。/作り上げるだけでも大変だったと思います。

No.12



「際」

-都心の公園の際でつながりを創る-
菅原 龍二郎(すがわら りょうじろう)
東京電機大学 情報環境学部 情報環境学科

一次審査結果 : --- 二次審査結果 : ---

奨励賞

市民の声

マンションでも庭があつたり木を多く使っているのを見かけ目を奪われる。/アイデアが良い。/アリアフリーを意識しており全ての人が楽しめそうだ。自然を上手に使い込んでいるので素晴らしい。/色々な色について、子供たちも興味を引いていた。/現実的で且つ人が楽しめそうだ。/実施設計が素晴らしい。/住宅街といっくは建成された場所に対して小さなきっかけを作る提案で、1棟1棟が離れて関係を持たない日本の住宅街に対し建築的な役割を果たしていると思う。/実際に1/1で作品を作っていて、現場ならではの発見があり、建築を楽しんでいるように感じた。/他作品のほとんどが設計と模型の組み立てで完結する中、実際に施工して実現していることにとても魅力を感じた。「設計+施工」と言う考え方を増えて欲しい。/小さい敷地のベースを利用した簡単な構造で素人でも作れるような建物である。/作ってみたいと思わせる作品。/1/1の作品をつくったうらやましさ建設プロセスにおける周囲との関係、今後の様子も気になりました。/作り上げるだけでも大変だったと思います。

No.13



木更津活性化計画

交流を促す福祉施設兼用集合住宅
上田 堅登(うえだ けんと)
千葉県職業能力開発短期大学校 住居環境科

一次審査結果 : --- 二次審査結果 : ---

奨励賞

市民の声

仕事が福祉関係なので興味深かった。/シンプルで派手ではないものの、実現性やコンセプトとの合致性から評価できる作品だと思う。抱きのない長い住みそうな住宅。改修もやりやすそう。/これから時代はこういった環境が必要なのかも。/交流を促すことができるのが一番の魅力だと思う。/各世代の間鋏感を解くことはこれから時代に即した重要な課題だと感じた。/ここに住みたいと思った。/今後はこのような併用集合住宅という提案は必要になってくる。/少子高齢化の問題を解決するために、とてもいい提案だと感じた。/立体的で、空間の使い方がうまいと思った。

No.14



市民の声

海祭礼讃
一漁業と祭りを中心とする町の建築ー
高梨 淳(たかはし あつし)
東京理科大学 理工学部 建築学科
一次審査結果:○ 二次審査結果:○

優秀賞 JIA 出展作品

市民の声

実現しているんだと思う。/地元を上手く表現していく、応援したい作品である。/故郷に似た立地条件で共感した。祭り、神社、コミュニティなど上手くまとまっていると思う。夢があり、実現してほしい。/海岸への防波堤を強化している今時代に、海に近い場所で勝負するところに思い入れを感じた。津波対策が見え隠れで良い作品になると思う。/防災拠点となるような建築というなかで、あのボリューム感や模型表現は凄いと思った。しかし木の階段ばかりで少し怖いとも思った。/海と生活に関連した考えが良い。/大漁旗が気持ち良い。/山や海の中に建物を配していく、人々も自然の中で生き生きと生活できそう。大変素晴らしい模型が作られていて感動した。本物が作られたらしいと思う。/地元が海の近くなので、将来このような素晴らしい場所出来る事を願っている。/模型が、人間の目線から見ると非常に良かった。漁業と伝統文化の関わりが面白かった。/凄いと思わ。/使用目的のしっかりとった場所において、効率よくダイナミックなつくりが印象に残った。良かった。/衰退する漁港を拠点に山から海、地域間、ハレとケをつけられる展開を期待。防災の観点が加わるとなお良い。

No.21



市民の声

力タチのアラワレ
一動きのカタチの存在とそれに基づく設計ー
町田 忠浩(まちだ ただひろ)
千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科
一次審査結果:--- 二次審査結果:---

特別賞

市民の声

何か?よくわからないが気になる。(人の動きを形にした住居は他の作品と異なり、意外性と新たな着眼点に驚きを感じた。)/内容の理解は難しいが、プレゼンターの話しが順序だつおり聞きやすかった。/日常の中での行動や建築を考えさせられるいい設計だと思った。/本を読むための建築は私も欲しいと思った。一つ一つの動作の価値を見出せる発想に驚いた。素敵な空間だと思う。/街中や駅に実際にあつたら素晴らしいと思った。/この作品は空間が限定的で、行動おこさせる計画になっていて、面白いと思いました。/挑戦的な形で、気持ちが悪いが、原理や理論は非常に面白いと思った。/人の動きを建築にするという発想が面白い。/形も温かみがあつて本当に入ってみたい。

No.15



市民の声

明日を乗せる“はこぶね”
応急仮設住宅を再利用した児童宿泊施設と児童館
鈴木 将真(すずき しよま)
千葉大学 工学部 都市環境システム学科
一次審査結果:--- 二次審査結果:---

奨励賞

市民の声

千葉のため、勉強頑張って下さい。/仮設住宅が児童館として記憶と実用で残されていく複数点は素晴らしい。/実的でダイナミックな画面で良いと思う。/船をイメージさせる建築物で良かった。/江戸の街並みでタイムスリップしたように感じた。楽しい。/細かくて美しい。古来の日本建築に似ていて、日本の季節変化に合っていると思う。/設計の仕方が上手だと思った。/子供が遊んでいる様子が良い。/仮設施設を題材にしているのが良い。/若のうで面白い。/戦国時代を思わせて、子供はワクワクすると思う。/江戸時代の火見櫓みたいだった。/全ての施設が丁度いいでつながっていて、子供たちが走る姿が想像でき、仮設住宅と良い意味で逆の雰囲気になっていて素敵だった。/日本らしいデザイン。臨時施設をそのままに残る形にする所も良い。個人的に美しいと思った。/平成の中で増えた仮設を次の時代の子を育てる環境に出来るのを知った。/状況や時代に応じて必要なものへと変化できるつくりが良いと思った。/視点が素晴らしい。/コンセプトがグッド! /本来こうあるべき。素晴らしい作品。/図面も模型も美しい!

No.16



市民の声

Connected Pedestrian Sky Road
一手賀沼の辺りの道ー
上杉 玲央(うえすぎ れお)
日本大学 短期大学部 建築・生活デザイン学科
一次審査結果:--- 二次審査結果:---

奨励賞

市民の声

コンセプトは面白いのだが、内容が少し「どうしたいのか?」というのが書かれていて残念だった。しかし、昨今では珍しい考え方だったので最も好み。/コンセプトは薄いが表現が楽しい。着眼点が良い。/建築空間がラドマークとしてピッタリ。水辺と接点ができる公園として機能的。/海が好きだったので期待している。創る方は携わったことはないが解体は少しやったことがあるのでとても頑張った。/鏡ではない金属のないので、塗装対策が大変そう。/手賀沼の辺りの道が素敵だった。沼を観る、見る。水の楽しさをこの型で表現できるといいと思った。人々の生活で無くてはならない水(すなわち、地域の川)。かつて人々は川の傍で住居を作り生活が始まっていた。大事な場所だった。水辺が大好きなので、現代でも多くの人が集まって楽しい時間を過ごすことが出来ればと考えさせられた。自分の住んでいる地域の近くなので共有できる部分もあったが、もう少し建物をつなげて外に出すに移動できる空間にした方が良いと思う。育った町の近くで興味深かった。/手賀沼あたりに住んでいたので、思わず。/手賀沼辺りの道は地元でもあり興味深かった。

No.17



市民の声

小さな沈黙、繙く支度
西條 杏美(さいじょう あんみ)
千葉大学 工学部 建築学科
一次審査結果:○ 二次審査結果:○

優秀賞 なの花賞 JIA 出展作品

市民の声

ストーリーのある建築。社会的な問題を取り上げて提案されており、面白目な建築と思った。/日本の歴史の悲しい分野に着目して、建築学のストーリーを構築して素晴らしい。象徴する建物が時間と共に滅ぼされていく発想は今までに見たことがないくらいである。/設計で近いことを考えていたので強く共感できる。造形の崩も似ていると思った。/思いつかないようなデザインでワクワクした。/テーマで問題意識が高く、つくれたものを壊すところがストーリーとして良い。壊すならなぜつくるのかが気になるが。/歴史を風化させない、学生の問題提起に感銘を受けました。/ハンセン病のこと、なくなっていく診療所の定めを設計した建業の解説を設計することで、ハンセン病のことを伝える。その流れが自然と計画されていて、素晴らしいと思った。/静かな華やかさがある。コンセプトもいい。/それを実際に建てたいと考えると、これだと思った。/模型がわかりやすく、使い方がイメージできる。

No.18



市民の声

連なりあう空間
一港を中心としたオリンピックレガシーの提案ー¹
川口 貴也(かわぐち たかや)
東京電機大学 情報環境学部 情報環境学科
一次審査結果:--- 二次審査結果:---

奨励賞

市民の声

オリンピック後の湘南港を有効的に使用できるように考えられた建築で、大変現代的で合理的な素晴らしい作品だと思う。/開催後の提案が良かったです。他の施設にも手を広げて考えて欲しいと思った。/とても完成度が高く、良く仕上げたなと感じた。/平面での表現がとてもいい。/恒久的に活用できるプランは素晴らしいと思います。

No.19



市民の声

箱入り娘の夜
私たちの想いを携えそびえる洞窟の家
長瀬 紅梨(ながせ あかり)
日本大学 生産工学部 建築工学科
一次審査結果:--- 二次審査結果:---

奨励賞

市民の声

新しいデザイン/强度が心配/建設するコストなどは考えられているが、都会に建てるとかなり大変な気がする。/いろんなのがある、とても細かく作られていて凄いと思った。/内側の膜を段々にうねらせて、次の外側の膜もねらせて、外の町が内側に入ってきている。見えてとても楽しい作品だった。/女性の気持ちを良く表したものとなっている。空間の構成も新しい。気も日に寄り添う住居なんてなかなか思いつかない。素晴らしい発想。/ミラノで見た建築を思い出した。クール! /大きいけれど、バランスがとてもいいいろいろな種類の間取りがあつて面白い。/建築の知識がない私でもとてもわかりやすい表現になっていた。こんなにいたいたものでこれまでおれないかしんばいでいます。こまかいところまでちゃんとできています。(原文まま)何層も細かく作られていて、また隙間で感動しました。/インパクトがありました。すべての部屋に光、共有部を大切にしており現在の要望にかなっていると思います。

No.20



市民の声

Pass The Time
一時間暇をつぶせる施設
大藪 祐司(おおやぶ ゆうじ)
日本大学 短期大学部 建築・生活デザイン学科
一次審査結果:--- 二次審査結果:---

奨励賞

市民の声

木を使ったり空間の使い方が素敵に思う。/デザイン性がアクトイティ感もあって楽しそう。/デザインが面白かった。/提案が素敵だと思った。また、建物の形も魅力的で印象に残った。/時間のための施設、なかなかシンプルでユニークだった。/時間が面白かった。/模型の木の部分がオシャレで良い。コンセプトが身近で想像しやすい施設だった。/シンプルで素敵なのだが、どこかで見たことがあるような感じがした。/庭園のデザインが面白い。建物の素材も木が多く見えることで温かい雰囲気になっており、好みである。生活の中のちょっとした時間と人々が有意義に自由に使えるなりで良いと思った。/地域に密着していてとても興味が湧いた。/時間つぶしが出来る場所という視点がよかったです。このような場所がいくつもある良い。駅の時間帯有効に使って、日常の動作を一つの建築で表現するのが面白い。建築だけではなく実際に体験できるようにした方がイメージが掴みやすかった。/細かいところまでデザインされていて、素敵。こんな施設なら子どもをつれて行きたいと思いました。/木のマークを建物に取り組んでるのが工夫されているし、面白いと思う。

No.21



市民の声

力タチのアラワレ
一動きのカタチの存在とそれに基づく設計ー
町田 忠浩(まちだ ただひろ)
千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科
一次審査結果:--- 二次審査結果:---

特別賞

市民の声

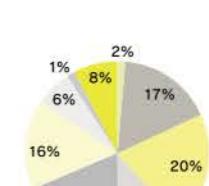
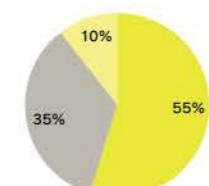
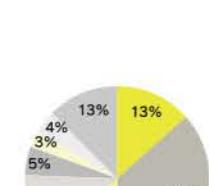
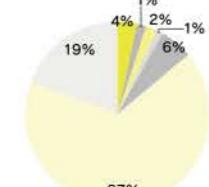
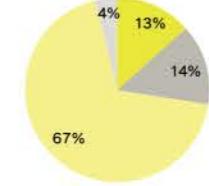
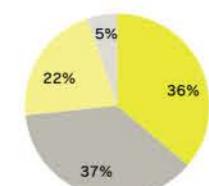
何か?よくわからないが気になる。(人の動きを形にした住居は他の作品と異なり、意外性と新たな着眼点に驚きを感じた。)/内容の理解は難しいが、プレゼンターの話しが順序だつおり聞きやすかった。/日常の中での行動や建築を考えさせられるいい設計だと思った。/本を読むための建築は私も欲しいと思った。一つ一つの動作の価値を見出せる発想に驚いた。素敵な空間だとと思う。/街中や駅に実際にあつたら素晴らしいと思った。/この作品は空間が限定的で、行動おこさせる計画になっていて、面白いと思いました。/挑戦的な形で、気持ちが悪いが、原理や理論は非常に面白いと思った。/人の動きを建築にするという発想が面白い。/形も温かみがあつて本当に入ってみたい。

市民の声

展示や会場について



第31回千葉県建築学生賞 アンケート回答者データ集計



1.どちらからいらっしゃいましたか?

- 千葉市内 156
- 千葉市外の県内 159
- その他の地域 92
- 未記入 22

2.以前よりこの学生賞を知っていましたか?

- 以前見た事がある 47
- 知っていたが初めて見た 49
- 知らなかつた 238
- 未記入 13

3.今回この学生賞をどこでお知りになりましたか?

- ポスター 15
- チラシ 6
- 広報誌 8
- 新聞 5
- 学校の先生の薦め 24
- 会場にて偶然 278
- その他 80

4.あなたの職業をおしえてください。

- 建築関係 57
- その他の業種 150
- 主婦 59
- 大学生 57
- 高校生 21
- 中学生 13
- 小学生 17
- その他 53

5.あなたの性別をおしえてください。

- 男 231
- 女 146
- 未記入 44

6.あなたの年齢をおしえてください。

- 10歳未満 7
- 10代 71
- 20代 86
- 30代 49
- 40代 80
- 50代 68
- 60代 27
- 70歳以上 6
- 未記入 33

第31回千葉県建築学生賞

審査結果・なの花会賞



全国大会出品

No.10 水都の樹冠
ゼロメートル地帯の適しるべ
となる防災・避難公園
勝部 秋高

No.14 海祭礼譜
一漁業と祭りを中心とする
まちの建第一
高梨 淳

No.17 小さな沈黙、
繙く支度
西條 杏美

Akitaka Katsube
Anmi oshiyou



なの花会賞

小さな沈黙、繙く支度
西條 杏美(さいじょう あんみ)
千葉大学 工学部 建築学科

なの花会賞は、過去に千葉県建築学賞へ出展したOB・OGで構成するなの花会の会員が公開審査会当日に発表を公聴したり作品を見たりし、審査会終了後に投票・討議して決定する賞です。今年は昨年の出展者(第30回)も参加し多世代にわたる意見の交換がなされました。一人ひとつの推薦案を選んだ結果、作品番号5「見えない感覚で」、14、「海祭礼譜」、17、「小さな沈黙、繙く支度」、19、「箱入り娘の夜」が票を獲得しました。どれも甲乙付けがたく接戦の末西條杏美さんの「小さな沈黙、繙く支度」が本賞を獲得しました。

全体的に社会性・世相を反映した作品が多い中、特にこの作品はハンセン病という重い社会的テーマを彼女ならではの視点で叙情的に綴め上げたところが秀逸で本賞にふさわしい作品だと思います。

この作品は、島比呂志『奇妙な国』の一文で始まり、青森県の「松丘保養園」を紹介します。この滅亡していく保養園と共に忘れ去られていく事実、歴史をどうしたら後世へ伝えて行けるのか彼女なりに必死に考えもがき続けた結果、森の中に隔離された保養園と住宅地の中間に周辺住民が活用する利便性の高い複合施設兼ビジターセンターを計画します。この施設では地域住民と保養園入所者のイベント交流や語り部活動などが行われ、森の中に隔離された保養園に周辺地域の人々の動きが漂い始めます。そして老朽化した保養園は徐々に姿を消し歴史の森へと変容していきます。その後、計画された複合施設兼ビジターセンターも「松丘保養園」がみんなの心に構築されていく過程と併せ徐々に解体されていく。そして最終的には両施設の跡には境界の無い森が現れ作品は完結します。最後に建築のかたちを散て残さなかつたところが我々の心に強く残ったのではないかと思います。

作品全体の起・承・転・結がとても分かり易く展開され、他の作品にはない淡いモノトーンを基調とした表現方法で綴めあげられたところは特に秀逸だと感じました。

今後の彼女の活躍を期待し、なの花会全員で見守って行きたいと思います。

(第1回出展 なの花会会長 岡松利彦)

第31回千葉県建築学生賞

審査員紹介



審査委員長
田端 友康

Tomoyasu TABATA

1968年生まれ。シーザーベリ&アソシエイツジャパンにて鳥取県倉吉の複合施設、羽田空港ターミナルなどを担当。モロッコ王国エッサウイラ県庁都市計画部、フランスでの遊学を経て、海外で出会った人たちのように地元千葉を誇れる街にしたという思いから、2005年田端建築デザイン事務所設立。住宅設計・まちづくりを中心に活動。船橋習志野で「ケンチク・ふらっと」を結成し、展示会やセミナー、街歩きなどの活動を行う。

出向元:(公社)千葉県建築士事務所協会



審査副委員長
磯野 智由

Tomoyoshi ISONO

1974年千葉県生まれ。(株)榎本建築事務所に5年間、教育/福祉/商業施設の実施、現場やコンペ、プロポーザルなどの担当をし、2004年STYLELABを設立し独立。独立後は住宅の改修から新築を中心に、商業施設から公共へ、活動を抜けている。現在では住まいのある茂原市に於いては、まちづくり市民活動団体CivicTechMobaraの代表も務める。

出向元:(公社)日本建築家協会



審査委員
蒲生 良隆

Yoshitaka GAMOU

1961年東京都生まれ、日本工業大学工学部建築学科卒業、1984年(株)協和建築設計事務所から(株)マキノ建築設計事務所を経て1995年がもう設計事務所を開設し現在に至る。商業施設、幼保施設、マンションなど精力的に設計活動中関東甲信越建築士会ブロック会、2018年優良建築物表彰受賞「瑞穂幼稚園」。

出向元:(一社)千葉県建築士会



審査委員
関谷 和則

Kazunori SEKIYA

1971年生まれ。1996年竹中工務店入社、現在東京本店設計部設計ISD(第6)部門設計2グループ長、日本大学理工学部建築学科非常勤講師。「まちを再構成する」「賑わいを創出する」を実現するため、商業施設などの「ハード(建物)」と「ソフト(仕掛け)」の双方を企画し、設計施工で実践している。建築デザインによつて、良質な社会インフラを創出することができると考えおり、生活を豊かにする建物づくりをめざしている。

出向元:(一社)日本建築学会



審査委員
貞弘 清英

Kiyohide SADAHIRO

1953年東京生まれ
法政大学工学部建築学科卒
(株)川口衛構造設計事務所11年在籍の後独立、現在に至る
(株)貞弘構造設計事務所
出向元:(一社)日本建築構造技術者協会
JSCA千葉



審査委員
西山 芽衣

Mei NISHIYAMA

1989 群馬県沼田市生まれ
第24回千葉県建築学生賞出展
(特別賞)
千葉大学工学部建築学科 卒業
2012~ (株)北山創造研究所
2015~ (株)マイキー
【主な作品】
HELLOGARDEN(2016年グッドデザイン賞受賞、第2回まちなか広場賞特別賞受賞)、西千葉工作室、吉日学校(2018年グッドデザイン賞ベスト100受賞)
出向元:なの花会

Introduction of the judges

自分に問い合わせ、社会に問い合わせ、その回答が誠実なものとなっているのか。皆様の素敵な提案と熱意ある表現について語り合えることを楽しみにしています。



津田沼ノ町住 菊田川ノ住



東船橋ノ住 奏の杜ノ職

人にどのように伝えて、共感を得ることができるか、プレゼンテーションは、建築以外でも、様々な場面で必要となる技術です。色々の想いをどのように伝えてくるか、楽しみにしています。がんばってください。



とみやまHWオアシス



土間のある家 小倉台の家

学生のときにしか発想出来ない夢のある作品を期待しています。学生の皆様と共に学生賞を楽しみたいと思います。



まごと第三幼稚園2018 英進幼稚園2016

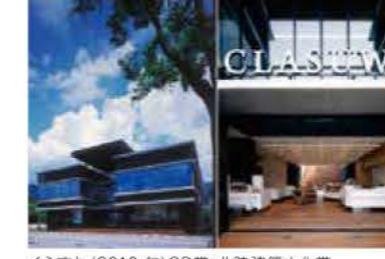


瑞穂幼稚園2017

公開審査を通じて、作品の再考すべき点をぜひ発見してください。そして、より強い作品にするために、手直しをしてほしいと思います。



新宿東宝ビル(2015年)BCS賞・GD賞



くらすわ(2010年)GD賞・北陸建築文化賞

□好きな言葉
「美しいものの機能的である」(丹下健三)
□構造設計で最も重要であると考えていること
「ディテール」



筑波博外国展示館/楳総合事務所



京都丸太町教会/貞建築設計事務所



すみれこども園/マニフィールド

都市や社会的な大きな視野で、作品を評価させていただきたいと思います。未来に対して熱い夢をいっぱい詰め込んだ作品に会えるのを楽しみにしています。



HELLO GARDEN



西千葉工作室

第31回千葉県建築学生賞

審査員紹介



審査委員
田村 裕希
Yuki TAMURA

1977年生まれ。東京藝術大学大学院修了後 SANAAを経て、2005年に松岡聰田村裕希を設立。「バルーンコート」(2005年、バンクーバー)でAR+Dアワード(英国)受賞、「裏庭の家」(2015年、日立市)で日本建築設計学会賞、JIA新人賞2016、日本建築学会作品選奨受賞。著書に『Sight & Architecture』(2009年、グラフィック社)、『サイト—建築の配置図集』(2013年、学芸出版社)で日本建築学会教育賞(教育貢献)受賞。

出向元: なの花会



コーディネーター
佐々木 達郎
Tatsuro SASAKI

1979北海道生まれ。2002千葉工業大学工業デザイン学科卒業。2004同大学修士課程修了。2004-2013東環境・建築研究所。2013～株式会社佐々木達郎建築設計事務所設立。現在千葉工業大学非常勤講師。

星のや軽井沢～AACRA賞、JIA環境建築賞優秀賞、その他、星のや東京～グッドデザイン賞(※東環境・建築研究所担当作品)。

Office-MIURAで日経ニューオフィスデザイン賞北海道知事賞。星野リゾートOMO5東京大塚でグッドデザイン賞BEST100。

出向元: なの花会

建築はひらかれた存在なので、ときに設計者の想定を越え、建築が設計者を次のステージに引き上げるのだと思います。



ハウスオンサイト(2019.烏取市)



Balloon Caught (2005.バンクーバー)



Iri庭の家(2015.日立市)

主催者団体

(公社)日本建築家協会(JIA)
千葉地域会

● Tel : 043-225-7881

建築の設計監理を行う千葉県内の建築家の団体。会員は、日本建築家協会の会員。専業建築設計事務所の主宰者、共同者、所員、官公庁、学校等に所属する建築家。

(公社)千葉県建築士事務所協会

● Tel : 043-224-1640

建築士法により開設された建築士事務所の団体。会員は、建築設計事務所、建設会社の設計事務所、工務店設計事務所、不動産会社設計事務所、プレハブ業界建築設計事務所等。

(一社)千葉県建築士会

● Tel : 043-202-2100

建築士法により設立された一級建築士、二級建築士、木造建築士の団体。会員は、建設業、設計事務所、工務店、官公庁、学校、建材業、不動産業、プレハブ業に勤務する建築士。

(一社)日本建築学会関東支部
千葉支所

● Tel : 043-202-2100

建築に関する学術・技術・芸術の促進発展を目的とする法人。全国に9支部36支所。会員は、研究教育機関、設計事務所、建設業、官公庁、公社公団、メーカー、コンサルタント、学生等多岐にわたる。

協力団体等

(一社)日本建築構造技術者協会
JSCA千葉

● Tel : 043-225-2181

建築構造設計者、構造エンジニアで構成される職能組織。建築構造に関する賞としてJSCA賞、資格としてJSCA構造建築士を主催している。略称はJSCA。

なの花会 千葉県建築学生賞出展者の会
「なの花会」は、これまでの千葉県建築学生賞に出品したOB/OGの同窓会組織として、2009年6月に誕生しました。第一回の出展者から現役の学生まで、出身大学や世代を超えた幅広いメンバー間の、豊かな繋がりや交流を目的とした活動を行っています。

Chiba Architecture Graduate's Prize 2019
2019年
3月9日(土)10:00~20:00 (10:00~公開審査/17:30~表彰式)
3月10日(日)10:00~17:00 (作品展示)
イオンモール幕張新都心グランドモール3「イオンホール」
所在地: 千葉県千葉市美浜区美浜1-1

会場

チラシ

chiba architecture graduate's prize 2019

60

SPONSORSHIP**協賛**

J S C A 千葉	260-0044	千葉市中央区弁天2-16-11(有)市原建築構造設計事務所内	043-252-6174	
明智克夫	262-0012	千葉市花見川区千種町241-11	043-257-5754	
(株)鈴木ユニット	273-0005	船橋市本町5-4-2森ビル6階	047-425-8941	
総合資格学院	262-0019	千葉市花見川区朝日ヶ丘4-11-5	090-3202-2780	
(有)佐藤建基	130-0002	東京都墨田区業平1-9-4	03-5608-4582	
(有)巴工業	261-0023	千葉市美浜区中瀬1-7-1幕張テクノガーデンB棟20階	043-296-3292	
三協立山(株)	261-0001	千葉市美浜区幸町1-2-2桑田ビル内	043-241-7511	
(株)桑田建築設計事務所	260-0013	千葉市中央区中央4-14-1千葉不動産ビル2階	043-222-4751	
千葉県建設防水工事業(協)	260-0013	千葉市中央区中央4-8-5建築会館2F	043-222-0109	
(株)千葉県建築住宅センター	260-0028	千葉市中央区新町3-13千葉TNビル3F	043-203-8551	
日本E R I (株)千葉支店	166-0002	東京都杉並区高円寺北2-2-1巳善ビル5階	03-5356-8866	
(株)レスト	260-0843	千葉市中央区末広4-19-16	043-265-3030	
三和シヤッターアイ・エス(株)	260-0032	千葉市中央区登戸1-2-20	043-244-0121	
日建学院/(株)建築資料研究社	101-0062	東京都千代田区神田駿河台3-2新お茶ノ水アーバンビル8F	03-5294-3011	
日本ファイリング(株)	171-0022	東京都豊島区南池袋1-16-20	03-3971-7195	
児玉コンクリート工業(株)	344-0022	埼玉県春日部市大畑9日神パレスステージ112	048-734-4583	
(有)松原組	105-6310	東京都港区虎ノ門1-23-1虎ノ門ヒルズ森タワー10階	03-3502-7625	
西松建設(株)	260-0005	千葉市中央区富士見2-3-1	043-227-8527	
塚本總業(株)千葉支社	260-0027	千葉市中央区新田町1-1	043-204-5790	
(株)オカムラ	260-0045	千葉市中央区弁天1-15-1細川ビル4F	043-207-5581	
コクヨマーケティング(株)	260-0031	千葉市中央区新千葉1-4-3WESTRIO千葉オフィス棟6階	043-241-1295	
(株)日立ビルシステム	260-0024	千葉市中央区中央港1-13-1建設業センター5F	043-246-7624	
(一社)千葉県建設業協会	299-1152	君津市久保4-4-20	0439-52-2555	
(有)荒井設計事務所	277-0861	柏市高田1116-32	04-7143-0263	
(株)丸昭建材	339-0074	さいたま市岩槻区大字本宿232番地	048-790-5112	
(株)磯積算	260-0028	千葉市中央区新町18-14千葉新町ビル5F	043-302-7177	
日軽パネルシステム(株)	132-0021	東京都江戸川区中央3-5-5	03-5879-5470	
(株)メント	131-8505	東京都墨田区押上2丁目8番2号	03-3624-5401	
岡部(株)	260-0023	千葉市稻毛区緑町1-18-9新日本オフィスビル4階	043-241-2181	
アイカ工業(株)千葉支店	140-0013	東京都品川区南大井6-10-7岡安ビル2F	03-3762-8351	
(株)スポートテクノ和広	263-0002	千葉市稻毛区山王町202-15	043-421-13411	
(株)辻板金工業所	260-0045	千葉市中央区弁天1-21-3石橋弁天ビル2階	043-247-2631	
(協)千葉県鐵骨工業会	260-0031	千葉市中央区新千葉2-7-2	043-246-1131	
(株)角藤千葉支店	260-0013	千葉市中央区中央1-11-1	043-227-8766	
(株)イトーキ千葉支店	260-0044	千葉市中央区松波2-8-1	043-252-2821	
立川ブライド工業(株)千葉支店	263-0016	千葉市稻毛区天台1-5-5	0570-023301	
T O T O	260-0843	千葉市中央区末広4-18-1	043-208-1381	
東リ(株)	275-0023	千葉市花見川区幕張本郷5-2-11アトレーマー幕張101	043-382-3375	
リリカラ(株)	260-0001	千葉市中央区都町1-9-2 植草ビル	043-231-8450	
(有)ミノル商事	132-0035	江戸川区平井7-17-35	03-3617-8701	
(株)須藤黒板製作所	165-0026	東京都中野区新井1-1-5	03-3387-3330	
(株)青井黒板製作所	260-0843	千葉中央区未広5-8-6	043-266-6812	
(株)技研基礎	260-0034	千葉市中央区汐見丘16-12	043-245-4111	
孝和建商(株)	260-0023	千葉市中央区出洲港9-10	043-242-1377	
(株)恩田商工	264-0003	千葉市若葉区千城台南4-11-15	043-236-3211	
(株)千興商事	260-8567	千葉市中央区都町2-19-3	043-232-2541	
(株)千葉測器	260-0842	千葉市中央区南町3-2-13	043-209-2871	
(株)LIXIL関東支社	151-0053	東京都渋谷代々木3-24-3新宿スリーケービル5F	03-6859-5020	
ディックブルーフィング(株)	前田製管(株)千葉支店	260-0007	千葉市中央区祐光4-7-10	043-221-2051
日章興(株)	263-0043	千葉市稻毛区小仲台6-18-1-406	043-287-1211	
日本高圧コンクリート(株)千葉営業所	260-0021	千葉市中央区新宿2-1-20	043-242-4311	
文化シヤッターオ(株)	264-0025	千葉市若葉区都賀3-33-23	043-231-2100	
(株)格設計	262-0024	千葉市花見川区浪花町531-1	043-272-4193	
(株)がもう設計事務所	274-0815	船橋市西習志野3-26-8ファインコート北習志野2B	047-463-9901	
(株)意匠院	260-0027	千葉市中央区新田町12-15K16 401	043-203-0705	
河原泰建築研究室	103-0024	東京都中央区日本橋小舟町14-10中町ビル2B	03-3664-5887	
橋本総業(株)	270-1432	千葉県白井市富士71-3	047-443-5281	
昭和建産(株)	370-0603	群馬県邑楽郡邑楽町中野1453	0276-88-2121	
(株)セレコ	265-0074	千葉市若葉区御殿町2529-6	043-308-5120	
タニコー(株)	261-0005	千葉市美浜区稲毛海岸2-1-285	043-248-0791	
エスケー化研(株)	263-0003	千葉市稻毛区小深町122-1エスケー化研(株)千葉支店	090-903-6210	
(株)ビーエルシー東京支店	101-0032	東京都千代田区岩本町1-4-5NS岩本ビル902号	03-5829-4336	
ロンシール工業(株)	130-8570	東京都墨田区緑4-15-3	03-5600-1866	
田島ルーフィング(株)	260-0032	千葉市中央区登戸1-26-1朝日生命千葉登戸ビル9F	043-244-3711	
ヨニシ(株)	260-0044	千葉市中央区松波2-13-20オフィス松波	043-305-5970	

主催者団体

(公社)日本建築家協会千葉地域会(JIA千葉)

● 建築の設計監理を行う千葉県内の建築家の個人及び団体。

会員は、専業設計事務所の主宰者、共同者、所員、官公庁、学校等に所属する建築家

(一社)日本建築学会 関東支部・千葉支所

● 建築に関する学術・技術・芸術の促進発展を目的とする法人。

全国9支部36支所。会員は、研究教育機関、設計事務所、建設業、官公庁、公社公団、メーカー、コンサルタント、学生等多岐にわたる。

(一社)千葉県建築士会

● 建築士法により設立された1級建築士、2級建築士、木造建築士の団体。

会員は、建設業、設計事務所、工務店、官公庁、学校、建設業、不動産業、プレハブ業に勤務する建築士。

(公社)千葉県建築士事務所協会

● 建築士法により設立された建築士事務所の団体。会員は、建築設計事務所、建設会社の設計事務所、工務店設計事務所、不動産会社設計事務所、プレハブ業に勤務する地区設計事務所等。

ORGANIZER GROUP**PLANNING**
企画・発行 千葉県建築学生賞協議会

会長	中野正也
審査委員長	田端友康
副審査委員長	磯野智由
審査委員	関谷和則・貞弘清英・蒲生良隆・西山芽衣・田村裕希
審査コーディネーター	佐々木達郎
副委員長	柳田富士雄
得点表示委員会	伊藤哲也
副委員長	岡松利彦
作品受入委員会	佐久間達也・萩原進・大岩義充・桑田浩司
広報委員会	古里 正・柳田富士雄・森田敬介・安達文宏・大岩義充・加藤文男・神成 健
会場委員会	井桁正昭・野村優太・皆川拓(遠隔)・鈴木雄介・加藤文男・神成 健・大岩義充・飯沼竹一
表彰式委員会	安達文宏・佐倉 桂・遠藤啓史・岡松利彦・笠原由希
編集委員会	萩原進・岡田 学・高嶋彰男・山下勲
市民賞アンケート委員会	鈴木雄介・星野 治
JIA出展委員会	森田敬介
高校委員会	林 祐介・高旨清仁・首代昌紀
協賛委員会	鈴木周二・鈴木克則・坂本浩史・山田紀夫・野口賢二・野村優太・降旗・平瀬・吉浪弘之・平宅武司・中井玉樹・川原武美・高瀬俊輔・岡田修治・長谷川舞・合田武彦
ポスター・チラシ委員会	曾根岡拓路・岡松利彦・皆川拓(遠隔)・赤堀厚史
交流委員会	平宅武司・鈴木克則
執行役員アドバイザー	柳田富士雄・森田敬介・星野 治・古里 正・大岩義充・安達文宏・神成 健
歴代会長(助言)	明智克夫・清水 怡・麓 佳正・櫻井 修・宇野武夫・佐竹良造・寺川典秀・加藤文男・森田敬介・星野 治・古里 正・大岩義充・柳田富士雄・安達文宏・神成 健
オブザーバー	寺川典秀・柳田富士雄・森田敬介・須田正美
事務局	矢内美恵

AND ISSUANCE